

「ルーツ」

作
..
松井周

【登場人物】

小野寺 道雄…調査員

安藤 耕助…(父)

志乃…(母)

百合子…(長女)

千葉 拓司…仕事をリタイアした元運動家

呉 スズ…(母) …?

快人…(長男) …自宅待機人

立花 義彦…(父) 会社員

啓子…(母) 主婦

真希…(長女) フリーター

透…(長男) 高校生

原田 来空(らいく) …立花真希の恋人

水野 裕美(ひろみ) …共同スーパールの店員

柳沢 史江…性自認が男であるOL

斉藤 秀幸…配達人

① 漂流者

夏から秋にかけて。

夕方。バックパックを背負った泥だらけの小野寺、登場。

よほど疲れているのか足元がおぼつかない。

スマートフォンを取り出して、電話をかけるがつかない。

あきらめてふらふらと歩き出す。しかし、バランスを崩して倒れてしまう。

小野寺、倒れている。

立花透、登場。じつと小野寺を見ている。そして、近づく。

小野寺、いきなり透の足首をつかむ。

透
！

透、走り去る。

小野寺、再び立って、歩き出す。

橋のような場所で遠くを眺める。

誰かが見ているような気がして振り向く。けれど誰もいない。

再び歩き出して、このへんでは比較的に大きな家である安藤家に着く。

小野寺 ……ごめんください……

静まり返っている。

小野寺 ごめんください！

志乃 (耕助の妻)、隙間からそつと覗きこむように登場。

志乃 (訝しげに) はい…

小野寺 こんにちは。

志乃 … (曖昧に会釈する)

小野寺 すいません。ちよつと水…

志乃 間に合ってます。

小野寺 え？

志乃 間に合ってます。

小野寺 …あ、いえ、水をいただけますでしょうか？

志乃 …

小野寺 いえ、私、あの、

志乃、去る。

小野寺 … (あきらめて立ち去ろうとする)

百合子 (声) 誰？

志乃 (声) 知らない人。

百合子 (声) え？

志乃 (声) 怪しい感じの。

百合子 (声) 水って言ってなかった？

志乃 (声) セールスじゃないの？たまーに来る。

百合子 (声) 私、行く。

志乃 (声) 危ないよ！

百合子 (耕助と志乃の娘)、コップに入った水を持って登場。

おそろおそろ、小野寺に近づかないようにコップを置く。

小野寺 ありがとう！（コップの水を飲み干す）

百合子 …

百合子、去る。

小野寺、再び歩き出す。

スマートフォンをもう一度見る。

やはり繋がらないようで、振ってみたりするが変化がない。

バックパックを乱暴に地面に投げつける。

小野寺 なんなんだよ！もう！

その様子を遠くから、千葉拓司が見ていた。

小野寺、千葉に気付く。

小野寺 ……あ、これは……その…

千葉 ……

小野寺、バックバックを背負い直し、歩き出す。

千葉、その姿を目で追いつつ、去る。

小野寺、歩き出す。

呉スズ(快人の母)の家にたどり着く。

スズの家はみすばらしい。

小野寺 ……ごめん……ください…

静まりかえっている。

小野寺 ごめんください！誰か…誰かいませんか！

奥で何かを落としたような音がする。

小野寺 ごめんください！

呉スズ、登場。

スズ ……

小野寺 (老人が出てきたので少し声を大きく) ごめんください。あの、この辺で、

スズ ……聞こえてるよ。

小野寺 あ、すみません…あの、こんにちは。

スズ …

小野寺 このへんでどこか泊まる場所ありませんかね？

スズ …また来たか。

小野寺 え？

スズ また来たのか。ここはお前らのくるところじゃねえ。

小野寺 …あの、誰かと勘違いされてませんか？僕はその、道に迷ってしまったみたいで。

スズ 迷ってる、一生。

小野寺 そんな。

スズ お前らが人生迷おうがこっちは関係ないんだよ。

小野寺 いや、人生って…ちよつと、本当に誰かと間違えてませんか？はじめましてですよ、僕。

スズ 何度も会ってるよ。

小野寺 え？

スズ お前みたいなのやつに何度も。どいつもこいつも似たような顔で、うまい話持ちかけてよ。

小野寺 道に、迷いました。それだけです。助けてください。

スズ こっちが助けてほしいわ。雨漏りはするし、風呂場のタイルは剝がれてるし、電気は止められてるし、

小野寺 いや…

スズ 修理屋さん呼んでよ、修理屋さん呼びなさいよ！

小野寺 呼びます！呼びますから。あの、お願いします。泊まるところを探してるんです。ほんのちよつとでもここに。

スズ ここは旅館じゃねえ。鳴瀬に旅館はねえから。暗くなる前に引き返しな。

小野寺 え？鳴瀬ですか？ここ。

スズ え？だからそう言ってるじゃねえか。

小野寺 よかったあ！…ここが…鳴瀬…か…

小野寺、その場に倒れこむ。

スズ、小野寺の顔を覗き込む。

いつも着たままのような部屋着の快人（スズの息子）、登場。

同じように小野寺の顔を覗き込む。

② 洗礼

暗闇。

声がある。

声 ヒツチヨキ、クマ、カッパー…ヒツチヨキ、クマ、カッパー…

耕助 (声) 結局俺かよ…おい…おい！

小野寺、目を覚ますとそこは集会所であった。

小野寺をぐるりと囲むように、安藤耕助、志乃、百合子、立花義彦、啓子、

透、千葉拓司、呉スズ、斉藤秀幸、水野裕美、柳沢史江がいる。

小野寺 …え…あれ？

耕助 目、覚めたかい？

小野寺 ああ、ここは？

耕助 天国じゃねえわなあ！残念だけど。

皆、苦笑しながら小野寺から離れていく。

小野寺 え？本当にどこなんだ…ろう。…鳴瀬…なんですすよね、ここ。あれ？僕の（荷物を目で探して）…あった。

耕助 あんた、何者？

小野寺 …何者って…

皆、黙って小野寺を見ている。

小野寺 僕はあの…（名刺を出して）こういうものです。

耕助 …細菌？

小野寺 はい、古細菌という細菌の一種を研究してまして…このへんにですね、鳴瀬鉦山という廃坑があるという話をお聞きしまして、それで、地図で調べて歩いていたら、道に迷ってしまいました…でもここは鳴瀬なんですすよね？

耕助 地図で調べた？

小野寺 はい。

耕助 おかしいな。

小野寺 え？

耕助 地図に載ってねえんじやねえのか？

小野寺 え？いや、僕はインターネットで見て、それで…

耕助 …それで？

小野寺 はい。

耕助 どうするつもり？

小野寺 あ、せっかく来たんでゆつくり見させてもらおうかなと。廃鉱を

住民たち、ちらちらと顔を見合わせる。

耕助 観てどうすんの？

小野寺 そうですね、写真に撮ったり。

耕助 それで？

小野寺 研究します…それだけです。

耕助 …

小野寺 もちろん、ちゃんと許可を取ってそれでその…何日かに渡って見学させていただければと。

耕助 残念ながら、ヤマはもう閉鎖されてんだ。

小野寺 え？

耕助 閉鎖されてもう五十年になる。

小野寺 でも、入られた方もいるって…

耕助 それは非公式にな。公式にはもう閉鎖だ。

小野寺 その…どうにかありませんか？

耕助 どうにかねえ…

小野寺 どうしても見たいんです。

耕助 オレの一存じゃどうにもならねえ。

小野寺 どうすればいいですか？

耕助 どうするかねえ。

小野寺 …

耕助 あんたがこの鳴瀬と仲良くなれるかどうかじゃねえか？

小野寺 仲良く…したいです。

耕助 そう一方的に迫られてもなあ、相手の気持考えないとよ、鳴瀬の気持ちをよ。

千葉 そうねえ。

小野寺 …努力します。

耕助 いららない、いららない。努力いららない。

小野寺 頑張ります。

耕助 頑張らない、頑張らない。

小野寺 え？

耕助 このへん（口）でピーチクわめいてもしょうがねえ。な？形で見せてみろってことよ。

小野寺 …はい…そうだ、あの、この辺って温泉地ですよね？なんかそういう、宿をご紹介いただけますか？

住民たち、顔を見合わせる。

千葉 いつの話だよ。

義彦 まあまあ。

耕助 宿はねえよ、ここもこの周りも。もうみんななくなっちゃまって。

小野寺 あ、そうなんですか？

耕助 うん。

小野寺 あー…じゃあ、厚かましいお願いなんですけど、どなたかのお家に居候するなんてことはできますか？

沈黙。

小野寺 あの…何でもお手伝いしますけど…

さらなる沈黙。

耕助 申し訳ねえんだけど、ここの中はみんなシャイだからよ、わかってもらえるか？

小野寺 物置みたいところで構わないんですけど…

沈黙。

小野寺 本当、どこでも。

水野 あのだ…あれは(汚いビニールを指差して)ダメですか？

水野の指の先には簡易テントがある。

皆、顔を見合わせたり、耕助を見たりする。

耕助 どうするよ？

小野寺 あ、はい…あ、もうこれで！ありがとうございます！

耕助 なんて名前？あんた。(名刺見て)小さくて読めねえよ。

小野寺 あ、小野寺です。小野寺道雄。

耕助 はい、小野寺さん…じゃあそういうことで、今日は解散。

皆、ぞろぞろと去り始める。

小野寺 (住民に)ありがとうございます…ありがとうございます！色々お手伝いさせて下さい。

耕助 ここはよ、

小野寺 はい。

耕助 みんな静かに生きてんだ。

小野寺 はい。

耕助 あんまり騒がしくしないでくれ。

小野寺 はい。もちろん！

耕助　それがうるせえ。

小野寺　あ…はい…

耕助　じゃ。

耕助、去る。

水野も去ろうとしている。

小野寺　（水野に）あ、さっきはありがとうございました。

水野　いえ…別に。

水野、去る。

小野寺　…

小野寺、ホコリだらけのテントを取り出し、持って去る。

③生活

朝になる。

柳沢史江、登場。

史江の家。

音楽を流して、朝食の準備を始める。

小野寺、テントを建てる力が残っていなかったのか、テントを下敷きにして、

眠っている。そのうち、もそもそ起き出してテントを組み立てる。

そして、テントの中でまた寝る。

安藤家。

耕助、志乃、裏の畑で畑仕事をしている。

志乃 お父さん、これ(ナスなどを持って)、どうする？

耕助 あ？こつち分けとけ。

志乃 うん。

志乃、ナスをバケツに投げる。

百合子、家から出てジョギングを始める。

志乃 行っってらっしやい。

百合子 行っってきます。

百合子、朝、斉藤が運転する車で帰ってきた真希とすれ違う。

百合子 おはよう。

真希 (会釈する) …

真希、下向きで周りを見ないで歩いて行く。

立花家。

義彦(父)、啓子(妻)、透(長男)、朝食を食べている。

しばらく、無言である。

真希、帰宅する。

真希 ……ただいま。

啓子 おかえり。ご飯は？

真希 いない。

啓子 うん、わかった。

真希、去ろうとする。

義彦 ちょっと待て。

真希 何？

義彦 食べなさい。用意してくれたんだから。

真希 ……

啓子 いいよ。無理しなくて。

真希 ……いつもすみません。でも、まかない出るんで。

啓子 こっちももしかしたらつてぐらいだから。

義彦 待って。何だ？その態度は。

真希 わかっているくせにやめてよ。

義彦 何が？

真希 どうしてこんな態度になってるのか。

義彦 …座れ。

真希 …ねえ、あのことなんだけど…

義彦 …

真希 ねえ…聞ってる？

義彦 ダメに決まってるだろう！

真希 まだ何にも言っていない。

義彦 バカバカしい！

真希 バカバカしい？娘が自立しようってことが？

義彦 ああ、バカバカしい。誰に聞いたってそうだよ。

真希 そうかなあ？喜ぶことじゃないの？それは。娘が自立するっていうのはさ、喜ぶことなんじゃないの？

義彦 普通はな。

真希 普通にしてよ。

義彦 なあ？普通か？男に溺れるのが？男に溺れて流されちゃうのが、お前の普通なのか？

啓子 ちよつと！朝する話題じゃないよ、これ。

透 フフ！

真希 (透を睨んで)…

啓子 透！

義彦 男に夢中で、周りがもう全然見えませんって、そういうのを自立って言うのか？「家族」としてそれを応援しますとか言うのか！お前は！

啓子 もういい！終わり！終わり！

真希 本当、うるさい。

義彦 何だ、その態度は！

真希、去る。

義彦 まったく…何なんだよ、あれは。

啓子 そういう時期なんだって。

透 ……難しいですね、しかし。

義彦 ……まあな。

透 なかなか良かったですよ、家族っぽくて。

啓子 いいから、あんたは。遅れるよ、学校。

義彦 あ、こつちもだ。やばい。

透 じゃあ、行きますか？

義彦 ああ。

啓子 行ってらっしゃい。

義彦、透、歩きだす。

橋のところまで歩く。

すると、そこには、柳沢、斉藤がいる。

斉藤 おざーつす。

義彦 おはようございます。

斉藤 今日はこれで全員かな？

柳沢 はい、多分。

斉藤 はい。じゃあ、行きますか。

斉藤、柳沢、義彦、透、去る。

④スーパーの女

小野寺、起きる。

伸びをして、そして、歩き出す。

そのままスーパーまで行く。

住民が共同で経営しているスーパー。

お腹のふくらんだ水野、台車を押しながら登場。

開店の準備をしている。

水野 いらっしやいませ！あ…

小野寺 おはようございます！

水野 あ…どうも。

小野寺 昨日は本当にどうもありがとうございました。…（水野のお腹を見て）あれ？昨日は気付かなかったけど、その…
もうすぐですか？

水野 …ええ。あー、腰イタ。

小野寺 大変ですね。

水野 いえ。

小野寺 そうですか…あー、ここに何でもあるんですね。

水野 はい。ここ一軒しかないんで。スーパーは。皆で共同でお金出してるんですよ。

小野寺 へえ。

野菜や洗剤、トイレトーパーなどの日用品が並べられていく。

小野寺 なんか、手伝いますよ。

水野 あ、大丈夫です。

小野寺 いや、でも、

小野寺、ダンボールなどを持ち上げようとする。

水野、それを強く制止する。

水野 あの！本当に…

小野寺 …ごめんなさい。

水野、黙々と商品を並べる作業を続けていく。

小野寺 …あの僕、なんかそんなに皆さんの気に障ってますかね？

水野 …

小野寺 まあ、そうか。いきなりズカズカ入り込んできたみたいですね。

水野 …なんか色々あつたらしいですよ、昔。

小野寺 色々っていうのは？

水野 その、公害とか。

小野寺 鳴瀬鉦毒事件ですか？

水野 ああ、ご存知ですか？

小野寺 はい。詳しくはアレですけど。

水野 もう五十年くらい前か。公害とかあつて。ヤマが閉鎖されて、どんどん人がいなくなつて。

小野寺 ああ。

水野 閉山した後も、色々あつたみたいですけど。私はよく知らないです。ここに来てまだ三年くらいなんで。でも、私たち夫婦がここに来たときもすぐ警戒されましたよ。お前らは敵か味方かって感じで。

小野寺 だからか。

水野 ？

小野寺 いや、あの…あつちの、おばあさんに怒られたんですよ、出てけ！って。もうすごい剣幕で。

水野 (笑って) ああ…違うんですよ、あの人は。

小野寺 え？

水野 あの人はちよつと、そういう人なんです。

小野寺 あ、そうなんですか。

水野 はい。文句言うのが生きがみたいな。

小野寺 ああ、よかった…ダンナさんは、どの方なんですか？

水野 え？

小野寺 あ、すみません。突然あれですけど…えーと(水野の名前がわからない) 僕はその、小野寺と言います。小野寺道雄。

水野 水野です。水野裕美です。

小野寺 水野さん。はい、覚えました。その、水野さんのダンナさんは？

水野 えーと…はい。ダンナは今、ここにはいなくて。ポリビアに行つてて。

小野寺 ポリビア？

水野 はい。

小野寺 遠いんですね。ポリビア…えっと(どこでしたっけ?)

水野 南米ですね。

小野寺 南米。

水野 カメラマンやってて。

小野寺 かつこいい。

水野 全然。

小野寺 でもねえ、もうすぐねえ？ (水野の腹を指す) 帰ってこられるんですか？

水野 え、もう諦めています。

小野寺 えー。

水野 ねー、ひどいでしょう？

小野寺 いやいや。

千葉、登場。

水野 いらっしやいませ。

千葉 (会釈する)

小野寺 おはようございます。昨日はどうも。

千葉 …ああ。

水野 今日、ラスク入ってますよ。

千葉 ああ、ありがとう。

小野寺 ラスク、好きなんですネ。

千葉 えーと、誰だっけ？あんだ。

小野寺 小野寺です。

千葉 そうでもない。

小野寺 え？

千葉 ラスクは好きでも嫌いでもない。普通。

小野寺 あ。

千葉 ……いつまでいるの？

小野寺 いえ、特に決めてないというか。

千葉 ……

小野寺 あの…何かお手伝いすることはないですか？

千葉 うん？

小野寺 何かお手伝いすることあれば。あの、わりと何でもできる方なんです。

呉スズの息子、呉快人、ペットボトルを持ちながら登場。

ぶらっと店を見て廻る。

小野寺、軽く会釈するが、無反応。

小野寺 え？

水野も千葉も反応しない。

千葉 いいよ、別に。

水野 あ、千葉さん、畑のウネつくるのやってもらえば？最近、ほら、腰が痛いって言ってたし。

小野寺 あ、ぜひぜひ！

千葉 いいよ、いいよ。だって、たかが家庭菜園のあれだし。

小野寺 やらせて下さい！ぜひ。

千葉 何？何でそんな、ぐいぐい来るわけ？

小野寺 いや、あの…実は、お金ないんですよ。

千葉 え？

小野寺 来る途中で財布落としちゃったみたいで…

千葉 だって、宿泊まろうとしてたじゃない。

小野寺 いや、それも働いて。住み込みで働こうと思ってたんで。

千葉 …

小野寺 あ、でも、お金はいらないんです。その…野菜とかそういうものを分けてもらえれば。

快人、去る。

千葉 凶々しいね。

小野寺 すいません。

千葉 …今、来れるの？

小野寺 はい！ありがとうございます！

千葉、歩きだす。

小野寺 あれ？今の人は？

千葉 え？誰？

小野寺 今、入ってきた人。

千葉 いや、ちよつとわかんなかったけど。

小野寺 今、いましたよね？

水野 ああ、私もちよつとコレ（陳列）やってたから。

小野寺 男の人。四十代くらいなの…あ、そうですか…（水野に）あの、ありがとうございました！

そして、千葉の家に向かう。

水野 全然、全然。

小野寺、歩きだす。

千葉についていく。

⑤お手伝い

千葉 どっからきた？

小野寺 えーと、東京です。

千葉 俺もいたことあるよ、若い頃。

小野寺 あ、そうなんですか？

千葉 東の方。下町。本社がそこにあつてね。ボールペンの販売してた。

小野寺 へえ。

千葉 組合つくって活動してたら、どんどん飛ばされて。馬鹿らしくなってやめた。で、色々点々と職変えて、気付いたらまたここよ。

小野寺 ふるさとなんですね。

千葉 どうかねえ…できるの？畑仕事。

小野寺 まあ、力仕事は、はい。

二人、千葉の家につく。

小野寺 いいですね。畑が目の前にこう、いいなあ。

千葉 …こんな感じで。

千葉、クワを使って掘り起こしていく。

千葉 (腰を痛がって) イテテ…

小野寺 大丈夫ですか？

千葉 (腰を触って) キーキー言うんだよ。このへんの油が切れてるみたいだよ。

小野寺 (クワを持って) やります、やります。

小野寺、わりと順調に進める。

千葉、その様子を立って見ている。

小野寺 昔とは違いますか？このへんは。

千葉 え？ああ…もつと広がった、昔は。今は向こうの方は荒地地になってるけど、病院も学校もあった。温泉も出たしね。風俗もダンスホールもギャンブルも何でもあった。

小野寺 やっぱ鉋毒事件であれですか？

千葉 フフ、簡単に言うね。

小野寺 あ、すいません。

千葉 元々ここは落盤事故もほとんどなくて、こじんまりとした、安全なヤマだったのよ。ただ、ある時から人も魚も動物もバタバタ死んで、田んぼも畑も枯れちまって、もう踏んだり蹴ったりよ。

小野寺 ええ。

千葉 閉山って決まってからは、もうみんないなくなったよ。あつという間に。

小野寺 ああ…

千葉 あつちの川の向こう側ね。あそこは映画館で、俺らまだガキの頃は、裏口から入って、こっそり見てたよ、いろんな映画。西部劇とかミュージカル…(目の前の作業を見て) 違う違う、今度は土を戻して山をつくる感じで。

小野寺 え？こうですか？

千葉、小野寺からクワを取り、ちよつとやってみせる。

小野寺 ああ…やっぱり違いますね、僕のは。

千葉、小野寺にクワを返す。

千葉 土がダメだって言われてよ、鉛が染み込んでるって。でもそれじゃああってんで、今度は上から土かぶせたらもうそれで安全ですって、しれーっと。そうしたら、なんたらっていう大手の企業グループとか国の偉い人たちがさあ、またわんさか押し寄せるわけよ。やれ温泉リゾートに変えようとか、道路作ろうとか。それでまた詳しく調べたら、やっぱり土が汚れてるってんで、わーっっていなくなって。うちの親たちもポカーンとしてたな。

小野寺 ひどいですね。でもなんでここに？

千葉 え？

小野寺 いや、なんでそんなに寄ってくるんですかね、色んな所から。

千葉 土地が安いんだと。土地が安い割に資源もあって、秘境だからって。「一緒に再生しましょう」なんて言う割に、無理だと思ったらサーツといなくなって、逃げ足はええんだ。

小野寺 それで今はどうなんですか？

千葉 知らねえよ。そこでできたモノ食って生きてんだから。俺達は。死ぬんじゃねえの？もうすぐ。

小野寺 あの…

千葉 ん？

小野寺 鉱山を見に行きませんか？

千葉 …封鎖されてるよ、あそこは。

小野寺 そこを何とか。千葉さんをお願いするしかないのかなあって。

千葉 何で見たいの？そんなとこ。

小野寺 うーん…やっぱりそこが現場だったからですかね？

千葉 何もねえよ？観光してどうのとかいう場所じゃないし。穴掘った跡だよ。アリの巣の跡みてえなもんじゃねえか。

小野寺 でも歴史の証拠じゃないですか。

千葉 くだらねえ！土掘った跡に何、ときめいてんだよ。歴史でもなんでもねえよ。恥だよ、恥。恥のかたまり！

小野寺 …

千葉 …じつとして）あんまり怒るなって言われてんだ。血圧高いから。

小野寺 すいません。

千葉 地区長に聞いてみるよ。

小野寺 え？

千葉 ヤマに行きたいんだろ？

小野寺 はい。

千葉 あそこは鳴瀬の所有でよ、地区長やつてる耕助さんの許可があればなんとかなるよ。

千葉、小野寺からクワを取る。

千葉 (畑を見て) あーあー、ジグザグになってるよ。

小野寺 うわ！すいません！

千葉 どうやったたらこうなるかね。

小野寺 すいません。

千葉 まあ、いいよ。ご苦労さん。

小野寺 また何かありましたら。

千葉 あいよ。あ、これ持つてきな。

千葉、袋に入った野菜を渡す。

小野寺 え？ありがとうございます！

千葉 うちで取れたやつだから。

小野寺 ありがとうございます。

千葉 耕助はあれだぞ。

小野寺 あ、地区長さんですか？

千葉 そう。カネには弱いぞ。

小野寺 あー…ないですね。残念ながら。

千葉 あ、そう言えばそうだ。じゃあ、まあ頑張れ…

小野寺 はい。ありがとうございました。

小野寺、去る。

⑥お手伝い2

小野寺、地区長である安藤耕助の家に着く。

外から様子を伺う。

帰ってきた百合子が登場。

小野寺 こんにちは。

百合子 …あ、どうも。

小野寺 小野寺です。

百合子 安藤、です…

小野寺 おかえりなさい。お仕事ですか？

百合子 …はあ。

小野寺 何をされてるんですか？

百合子 え？

小野寺 ああ、お仕事。

百合子 (染め物を出して) これをちよつと…

小野寺 え？…これ、あなたが？

百合子 …ええ、まあ。

小野寺 売り物ですよ？

百合子 ええ、売ったり、売らなかったり…売れなかったり。

小野寺 いやいや…うわ！きれい。何染めって言うんですか？こういうの。

百合子 これは藍染めですけど…他にもまあ、色々。

小野寺 欲しいんですよ、こういう、首に巻くようなの。まあ、似合わないんですけど。

百合子 そんなことないですよ。

小野寺 いや、本当に。

百合子 いえ、似合っちゃいますよ。

小野寺 あ、似合っちゃいます？

百合子 似合っちゃいます。嫌でも似合わなくできないんです、草木染めは。

小野寺 ああ…

百合子 自然の原料でできてるんで。人間も自然の一部なわけですから、似合わなくないんです。

小野寺 ああ…それにしても色んな色がありますね。

百合子 元々鉱山だったんで、色々鉱物が豊かなんですよ。染料もつくりやすくて。これとか。

百合子、小野寺にストールのようなものを渡す。

小野寺、それを首にかける。

百合子 あ、うん。

小野寺 どうですか？

百合子 …あれ？

小野寺 え？なんですか？

百合子 いや、思ったより似合わないから…ごめんなさい。

小野寺 ほら、言ったじゃないですか？

百合子 いや、あ、これ、女物なんで。すいません！

小野寺 でも、触り心地はいいですよ。買おうかな。

百合子 いや、もっと似合うもの作りますよ。

小野寺 いやいや、これで。あ、でもお金ないんだ。

百合子 じゃあ、差し上げます。

小野寺 いや、それはまずいですよ。

百合子 本当に。

小野寺 そんな。言わせちゃったみたいだし。

百合子 本当に。

小野寺、百合子、ストールを押しつけ合う。

志乃、斉藤、登場。

志乃 え？どうして？

小野寺　こんにちは…小野寺です。

斉藤　こんにちは。斉藤です。

百合子　(会釈する)

志乃　…何これ？

小野寺　あの、ちよつと草木染めの話を。(と言いながらストールを取る)

志乃　(百合子に) どういうこと？

百合子　…

小野寺　いや、世間話ですよ。どんな色があるのかとか。…これ(と百合子に返そうとする)

百合子　…(受け取らずに) いえ！

小野寺　そんな、だって(と返そうとする)

百合子　(受け取らずに) …

志乃　(小野寺からストールを受け取って) あらあら。何？何なの？これは。

百合子　…

百合子、走り去る。

志乃　ねえ、ちよつと、あんた。

小野寺　はい。

志乃　鳴瀬に何しに来たか知らないけど、ウチの娘たぶらかさないでくれます？

小野寺 た、たぶらかしては、

志乃 どう見たってそうでしょう？

斉藤 そこまでは…ねえ？

小野寺 はい。それはないです。何かお手伝いすることないかと思って。

斉藤 ほら。

志乃 ないわよ。

小野寺 え？

志乃 ありません。

斉藤 いや、でもほら、やってもらったらどうですか？

志乃 え？

斉藤 あの、今ちよつとテーブルを動かそうと思ってて。切り株でできた大きいやつだから僕一人じゃどうかな？と思ってたんですよ。

志乃 大丈夫でしょう？ヒゲちゃんなら。

斉藤 何だと思ってるのよ、俺をさあ。

志乃 カップ男でしょう？できるわよ、そのくらい。

斉藤 やめてよー！

志乃 いいじゃない？村一番の力持ち。

斉藤 違うよ！ただのパシリじゃないの。

小野寺 カツパ男、なんですか？

斉藤 いや、違うの。あの：毎年ね、この鳴瀬でカツパ祭りっていう、この地域だけの祭りをやってるんですけどね。

百合子、登場。

家の中からこっそりと三人のやりとりを覗いている。

小野寺 ええ。

斉藤 まあ、あそこの川を泳いで、カツパ岩つてのが途中にあるんですけど、そこまで行って戻ってくると、その年は水害が起きないっていうね、それだけの祭りなんですけど。戻ってくるのが一番速かった男がその年のカツパ男になれるっていう、ただそれだけの。

志乃 簡単に言うけど、大変よ。

斉藤 だって俺以外、ほとんど年寄りだし。

志乃 まあね。うちの人も今年はやめようかって言った。心臓止まっちゃうかもって。

斉藤 あの人は大丈夫。だって、クマに頭突きして帰ってきたんだよ。

小野寺 えー！本当ですか？

志乃 たまたま頭噛まれそうになってすかさずよけたら、ここ（額）がクマの鼻にぶつかって、気絶したらしいのよ、クマが。それで持ってたカメラで首搔っ切ったって。

斉藤 いや、首切ったってのはウソでしょう？

志乃 本当、本当。生首、ボールみたいな蹴りながら山降りて来たって。

斉藤 ウソだよ！

志乃 本当だって。若い時よ？

小野寺 クマより怖いですね。

斉藤 ね？ほら、だから殺そうたって死なないよ、あの人は。

志乃 バカなこと言っていないで、ほら！ちやっちやとやっちやってよ。

斉藤 小野寺さんもぜひ。厳しいっす、僕だけじゃ。

志乃 …（小野寺を一瞥して）来たけりや来れば。

小野寺 はい、じゃあ、お邪魔します。

百合子、去る。

志乃、斉藤、小野寺、安藤家に入っていく。

そこらしばらく、三人はテーブルを持ち上げて動かす作業をする。

それとは関係なく、外の道を千葉、水野が距離を取って歩いて行く。

啓子、登場。千葉、水野とすれ違う。

啓子 こんにちは。

千葉 あ…こんにちは。

水野 こんにちは。

啓子 あれ？どこ行くんですか？

千葉 キュウリをね持ってつってもらおうかって…たくさん取れたから。

水野 斉藤さん、今いないんで。私が。

啓子 手伝おうか？

水野 大丈夫です。

啓子 だって、そんな(妊婦なのに)…

水野 少し運動したほうがいいみたいなんで。

啓子 スーパーは？

水野 開いてますから。お金置いといて下さい。

啓子 あ…はい。

水野 それじゃ。

啓子 はい。

水野、千葉の家に入っていく。

水野、座る。

千葉、水野に膝枕してもらい、お腹に耳を当てる。

水野、千葉の顔をなでている。

斉藤、小野寺、手伝いを終える。

志乃、見送る。

斉藤、小野寺、外を歩く。

斉藤 すいませんね。巻き込んだじゃって。

小野寺 いえ、元々その気だったんで。

斉藤 強烈でしょう？志乃さん。

小野寺 はい。

斉藤 懐に入っちゃうとね、楽なんすけどね。

小野寺 はあ。

斉藤 どんなワガママ言っても許してくれるっていうか、母性が強いっていうか。

小野寺 想像できないなあ、全然。

斉藤 豹変しますよ。金にもゆるいし、トロトロっすよ。

小野寺 え？ああ。

斉藤 遊びたいっすか？

小野寺 え？何を言ってるの？

斉藤 熟女好きっすか？

小野寺 え？何の話？

斉藤 またまた。好きでしょう？こういう話。

小野寺 いやあ…

斉藤 好きだよ、絶対。好きそうな顔してるもん。

小野寺 いやいや…でもまあ…嫌いじゃないかな…

斉藤 いいすね、正直で。俺も全然嫌いじゃない。

小野寺 いや、そのギャップというか、あの人の。

斉藤 ギャップなんてもんじゃないっす。むしろ、普段がウソで、二人でいるときにホント。

小野寺 想像つかないです。

斉藤 でしょ？だから、気に入られたほうがいいっすよ。逆に敵にまわすと厄介なんで。

小野寺 もう嫌われてるからなあ。

斉藤 来たばかりだもん。そりやそうよ…俺もね、よそ者なんすよ。ほぼ借金で首回らなくなって、ここに夜逃げしてきたっという。

小野寺 え？地元の人じゃないんですね。

斉藤 そうよ。たまたまここで、車運転するやついないっすんで、ドライバーとして雇われてるだけ。

小野寺 そうなんですネ。

斉藤 マジでこき使われてますよ！人使い荒いっすというか。志乃さんなんて俺のこと召使か使用人とか思っついてないっすよ、きつと。

小野寺 だってカッパ男でしょう？

斉藤 そんなの、だって、まあ、よそ者がやっと入学試験受かったぐらいなもんすよ。

小野寺 なんか大変だなあ。自信なくして来ましたよ…

斉藤 いや、大丈夫です。俺に任せて下さい。小野寺さん、すげえエリートなのかもしれないけど、

小野寺 全然、全然。

斉藤 いや、俺からしたら。でもね、小野寺さん、とにかく、理屈こねないで身体動かすじゃないですか？だから、もうそれだけでオツケーっていうか。見返り期待しないで動きやすいんですよ。それ、全部見られてるんで。

小野寺 そうか。でも辛くないんですか？こき使われて。

斉藤 俺？

小野寺 はい。

斉藤 それがね、全く辛くない。マズなんすかね。無茶なこと言われれば言われるほど、燃えてくるつつうか。しょうがねえなあなんて思いながらやっちゃうんですよ。あー、俺ここにいていいんだなあって。

小野寺 そうなればいいんですけどね。

斉藤 まあでも…あ！そうだ！やばいやばい。迎え行かなきや。じゃあ、また！ゆっくり話しましょうよ。

小野寺 あ、はい。

斉藤 それじゃ！

斉藤、去る。

⑦夕方の散歩

夕方。道。呉スズの息子の呉快人、登場。

寝起きのようだ。スウェット姿のまま、リットルのペットボトルを抱えている。

快人

あー、眠い。眠いなあ…あー、あー…これは僕の心の声です。だから誰にも聞こえないはず。僕は空気だ。空気にも言葉はあり、空気にも心がある。聞こえないとしても声はあって、感じないとしても感情がある。さて、仕事だ。今日も仕事をするぞ。眠い。眠いなあ…でもこれは日課だから。鳴瀬を守るためのパトロールは一日も欠かしちゃいけない。

斉藤、柳沢史江、義彦、透、登場。

快人とすれ違うが、誰も気づかない。

皆、自宅に帰ろうと歩いている。

その後ろを快人、歩いて行く。

斉藤、少し時間を潰して、安藤家に行く。

快人

お疲れ様。その疲れた身体をよく休めて下さい…何かあったら呼んでください。気づけば僕はそこにいますから。ただ、くれぐれも僕と目を合わせることがないように。どんなバチが当たるとか、それはもう僕にもコントロールできないから。できれば何事もなく、このまま余生を終えたい。とにかく、それまでは僕はこの仕事をまっとうする。

快人、立花家に入る。

そこには、啓子がいて夕食の準備をしている。

義彦、透、帰ってくる。

義彦

ただいま。

義彦、一旦去る。

透

ただいま。腹減ったー！

啓子

もうすぐできるから。

透 今日、何？

啓子 カレー！

透 また？

啓子 嫌なの？

透 そうは言っていないじゃん。手伝うよ。

啓子 うん、お願い。

透 ママ？

啓子 何？

透 呼んだだけ。

啓子 ねえ、高校生なんだから、親離れしなさいよ。

透 なんで、いいじゃん。

啓子 もっと反抗期とかそういう時期なんじゃないの？

透 古いよ、そんなの。

義彦、登場。

義彦 おい！タオル替えてないだろう。

啓子 あ、ごめんなさい。

義彦 言ったことはやってくれよ。

啓子 あ、芳香剤は替えておきましたから。

義彦 だから何？

啓子 あ、キンモクセイのにおい、嫌いだって言ってたから。

義彦 いや、それはいいよ、別に。

啓子 あ、すいません。

義彦 言ったことやってくれよ。言っていないことばかりやってんだよなあ。

義彦、去る。

透 ねえ、ママはどうしてあの人と再婚したの？

啓子 どうしてって…いい人だったからでしょう？

透 そうかなあ。一言相談してくれればよかったのに。

啓子 そういうこと言わない。

透 ママには僕がいるでしょう？

啓子 そうだけど。

透 血がつながってるのは僕だけだよ？

透、啓子に抱きつく。

透 いいにおい。

啓子 ちよっと、危ないから。ねえ、透、友だちいないの？

透 いるわけないじゃん。

啓子 なんぞ？

透 聞かないですよ、そんなこと。聞かないですよ。

透、啓子に強く抱きつく。

快人 (指差し確認のように) よし！

快人、立花家を去り、千葉の家に向かう。

水野、スーパーから自分の家に帰って行く。

その横には、小野寺がいて、荷物を持ってあげている。

快人、千葉の家に入る。

千葉、イスに座って、じつと虚空を眺めている。

快人 よし！

快人、千葉の家を出て、柳沢の家に入る。

そして、勝手に音楽をかける。

柳沢史江、自分の家に帰ってくる。

快人のことも音楽も気にせず、カバンを置いて座り込む。

快人、去る。

快人 (指差し確認のように) よし！

快人、安藤家に入っていく。

安藤家には、車の送迎を終えた斉藤が入り込んでいた。

志乃、斉藤の服を脱がしていく。

志乃、斉藤の押し殺したような笑い声。

その横の部屋で、百合子、何か縫い物をしている。

時折、横の声が聞こえてくるので、イヤフォンで音楽を聴く。

快人 よし！

快人、水野の家に入っていく。

水野、自分の家の前で小野寺に持たせていた荷物を受け取る。

水野 ありがとうございます。

小野寺 いえいえ。それじゃ、また。

小野寺、走って去る。

水野、自分の家に入る。

耕助が水野のベッドに寝そべって、水野に挨拶する。

水野、応える。

快人 よし！

快人、自分の家に向かう。

その家の前に、小野寺が息を切らして立っている。

快人、家に入らずに眺めている。

小野寺 ごめんください！…ごめんください！

スズ、登場。

スズ 何？

小野寺 修理に伺いました！

スズ あ、修理屋さん？

小野寺 いや…まあ、そうです。

スズ 入って、入って。

小野寺 失礼します。どこらへんですか？

スズ こっからここまで（全体を指して）

小野寺 え？

スズ こっからここまで、全部お願いね。

小野寺 …はあ。

小野、修理を始める。

快人、家に入らずに、またパトロールを始める。

⑧ 現実

夜。道端。

真希、思いつめた感じでポストンバッグを持って、立っている。

真希の恋人である原田、登場。

原田 おす。

真希 うん。

原田 行く？

真希 行こう。

原田 腹減ったー。何食う？（スマートフォンを取り出して）…うわ！全然入んねえ。（スマートフォンをしまう）

原田、歩きですが、真希は止まったまま。

原田 あれ？…何？

真希 え？何が？

原田 行かないの？

真希 …いいよね？

原田 何が？

真希 いいよね、家出しちゃって。

原田 え？家出？

真希 うん。

原田 家出すんの？

真希 うん。

原田 えっと…何それ？

真希 …来いって言ったじゃん。

原田 え？何それ？うちに？

真希 うん。

原田 いや、それはまあ、いつかはさ…

真希 父親に鳴瀬出てくって話したら絶対ダメって言われた。

原田 え？話したの？

真希 うん。もう何度も話して、何度も断られた。だから、もういい。

原田 よくねえよ。

真希 ちゃんとトモくんのことも言ったよ。

原田 え？…言ったの？

真希 うん。でも、認めてくれない。

原田 え、何て言ってた？オレのこと。お父さん。

真希 そいつにそそのかされてるのか?とか。

原田 ちよつと待って待って!まずいだろ、それ。

真希 違う。だから、ちゃんと一緒に決めたって言ったよ。

原田 まずいって!

真希 (原田を見て) …。

原田 ん?

真希 何それ?

原田 え?

真希 こっちはもうさあ、ギリギリの、駆け落ちするかって勢いなのに、何?その反応。

原田 …そんな、だって、いきなり…

真希 ねえ、大丈夫だから。うちはね、大丈夫なの…前も言ったでしょう?ウチは連れ子同士だし。家にいるほうが息、詰まるんだよ。

原田 でも、なんか、急ぎすぎだよ。あぶなっかしいっていうか。

真希 急がないと、だって。そうしないと、いつか鳴瀬に呑み込まれそうなんだもん。そうならもう抜け出せないから。トモくんだって住んでみればわかるよ、鳴瀬に。なんかこう沈んでく船みたいなんだもん。

原田 大げさだなあ。

真希 …

真希、去ろうとする。

原田 ちよつと！まあ、ちよつと落ち着けよ（真希の手をつかむ）

真希 イタイ！

原田 ごめん。でも本当落ち着けて。

真希 落ち着いたら終わりって思ってる。

原田 ねえ、見えてないって、周りが。

真希 見てきたよ、今まで二十年。何も起こらなかった。というより、もう、どんどんさびれていった…だからもう無理、限界。

原田 それもそうだろうけど。

真希 よくさあ、明日死ぬって思えば何でもできるって言うじゃん。

原田 え？あ、うん。

真希 でも思えないじゃん、そんなこと。きっとたぶん明日も生きてるだろうなあって思うし。

原田 うん

真希 ずっとここにいて、ずっとおんなじ毎日を過ごして、それでそのまま死んでくんだって思ったら、もうゾツとする。

原田 だからって。

真希 もっと毎日、新鮮でいたい。

原田 無理だよ、そんなの。

真希 無理じゃないよ。トモくんと新しいところで新しいことはじめればさ。

原田 …いや、真面目な話、俺は、とにかく、まず金貯めないとって思ってる。現実的に。何するにしても。

真希 そうだけど。

原田 順序が違うだろう。そりやお父さんだって納得しないよ。

真希 順序って？

原田 いきなり家出とかじゃなくて。

真希 …

原田 ちゃんとしようぜってこと。バイトだって、俺まだチーフでもねえし。お前だってそうじゃん？

真希 …つまんない。

原田 え？

真希 よくそんなこと言えるね。そんなこと誰でも言えるじゃん。

原田 それが現実だって。

真希 そうかもしれないけど…つまんないよ、そんなの。全然面白くない。

原田 面白くなくてもそうなの。

真希 そんなことしか言えないの？

原田 え？

真希 がっかりだよ。何それ？そんなの、ずっと誰かがさあ、ずっと繰り返してきた古くさいこと、ただ言ってるだけじゃん。

原田 でもそうやって人間は生きてきたんだから。

真希 何、偉そうに。

原田 なんだよ、それ。

真希 …ごめん、言い過ぎた。そういうトモくんの平凡なところも実は好きだから。

原田 んー…褒めてんの？けなしてんの？それ。

真希 両方。

原田 面倒くせえなあ、お前。

真希 ごめん。

間。

原田 …俺、これ言っただけさあ、

真希 何？

原田 まあ、いや。何でもない。

真希 言っただよ。

原田 いいって。とにかく、メシ、食いに行こう。

真希 言っただよ。

原田 え？…いや、これ、俺はそうじゃないって前提で聞いてほしいんだけど、

真希 …何？

原田 いや、うちの親はさ…本当古い人間だからさ、やっぱり、お前がその…鳴瀬出身だってこと、気にしてて…俺もそのことで何度もぶつかってるから…

真希 トモくんはどうなの？

原田 俺は全然気にしない。

真希 じゃあ、いいじゃん。

原田 いや、そういう人もいるってこと。それが現実っていうか…そういうところあるから…だからこそ、その現実に勝たないとき。

真希 …わかんない…全然わかんない。

原田 違うよ。俺はそうじゃねえけど。

真希 ほっとけばいいじゃん、そんなの。

原田 そうだけど…

真希 どうしてそんなこと言うかなあ…そんなこと、今、ここで…そんな(感極まって)…だって…そんなこと言ったら…全部もう無理じゃん!どうすんの?それはそうだとしても言っちゃいけないことじゃん!

原田 だって避けて通れないじゃん。

真希 そうかもしれないけど、トモくんに言われたらもうそれは…呪いだよ。呪いみたいなもんだよ。もう一生解けない…そんなこと、トモくんには言われたくなかった!

原田 …ごめん…じゃあ、逃げればいいのかよ。

真希 そんなこと言ってない!

原田 お前は、だって鳴瀬から逃げ出そうとしてるだけじゃん。

真希 それは違うよ。

原田 違わねえよ。結局鳴瀬に負けてんじゃん。

真希 …さようなら。今までありがとう。

原田 ちよつと…

真希、去る。それを追うように原田、去る。

⑨ 廃坑へ

夜。耕助、登場。

小野寺のテントの前に立っている。

耕助 おい…おい！

小野寺 (テントの中から) え？

耕助 俺だ。安藤だ。

小野寺 (テントの中から) あ！はい、今！

小野寺、テントから出てくる。

小野寺 何でしょう？

耕助 娘から聞いたよ。色々してくれたみたいで。

小野寺 とんでもない。押しかけたみたいになってしまつて。

耕助 他の奴らからもな、色々聞いている。シャイだから、あんまり口にはしないだろうが、助かってるつてよ。

小野寺 それなら良かったです。

耕助 今、いいか？

小野寺 はい。

耕助、歩きだす。小野寺もついていく。

耕助 ほら、言つてたろう？あんた、廃坑が見たいつて。

小野寺 はい、まあ。

耕助 連れてつてやるよ。

小野寺 ありがとうございます！

耕助 この地区長なんてことやつてもさ、娘の言うことには甘いつつか、あんまり失礼なことがあつちやならねえとは思つてよ。

小野寺 当然ですよ、そんな、僕みたいな素性のわからない男のことなんて、本当に。

耕助 うちの嫁もあんたに随分失礼だったみたいだし。

小野寺 いえ、もう本当に素直な方で。

耕助 どうかねえ。斉藤もいた？

小野寺 はい。カツパ男さんですよね？

耕助 ああ、エロガツパな。

小野寺 え?…ああ…

耕助 まあ、ああいうのもいないと成り立たねえから、こういうところは。

小野寺 はあ。

耕助 運転手がいねえとどこにも行けない。

小野寺 …

二人、去る。

すぐに登場。

暗い。そこは、廃坑の中である。

電気をつけると、野外用のランプが点く。

耕助 気をつけてな。そこら中に工具やらなんやらが散乱してるから。

小野寺 はい…寒い…

耕助 ここは、中にいると誰からも気付かれない。閉じ込められたらそれっきりの場所だ。

小野寺 そんな…怖いですね。

耕助 そうだな…で?

小野寺 はい?

耕助 何が目的だ?

小野寺 え？

耕助 何が目的なんだよ。はっきりしようか。

小野寺 どういうことですか？

耕助 いい、いい、そういうのは。今まで色んなやつが来てんだよ。様子を見にさ。さて、日本の秘境はどんなもんだろうって…リゾート企業の端くれもいれば、産廃業者の手先もいれば、興味本位のやつもいてな。それでまあ、そんな刺客が、行った先の実力者に会って話をしようとするわけだ。ただ、何ぶん、この鳴瀬は警戒心が強い。だから、身分を隠して実力者の懐に潜り込もうとする。違うか？

小野寺 あのー…ちよつとよくわからないんですけど。

耕助 いいよ、だから。そういうのは。

小野寺 いや、本当に。刺客ではないですし。

耕助 じゃあ、なんだ？

小野寺 僕は研究者に毛が生えたようなものなので…そもそも僕にはなんの権限もないし、僕は自分の研究のテーマのために来てるんです。

耕助 なんだ、そのテーマってのは。ナントカ細菌か？

小野寺 はい。古細菌です。

耕助 古細菌ね。

小野寺 はい…あの、古細菌というものは、古い細菌と書きますが、いわゆる細菌とは全く違う微生物です。で、この古細菌は今、世界中の研究者たちの注目を集めています。

耕助 それがなんなんだよ。

小野寺 あのと…こちらの坑道の奥にある熱水の源泉から…その、ある企業が持ち帰った源泉から、古細菌のサンプルが発見されました、その調査をさせてほしいんです。

耕助 それ、もつと早く言えよ。

小野寺 すみませんでした。もし機会があるなら、皆さんの前で説明させて下さい。

耕助 …鳴瀬に来た奴らは、ここをゴミ捨て場か温泉リゾートかダムにしようかって奴らばかりだ。そこに住んでるものがあるなんてまるで考えちゃいねえ。どうとでもなると思ってるやがる。

小野寺 そんなつもりもないですけど…すみませんでした。でも、この研究が進めば、いつかはノーベル賞級の発見があるかもしれません。私たち生物全体の共通の祖先の正体が明かされる！なんてこともよく言われます。

耕助 お前、それ早く言えよ。

小野寺 すいません。

耕助 じゃあ、お前ノーベル賞取れるのか？

小野寺 いや、それはまた別の話ですけど…実はここに研究所を作るといふ計画も持ち上がっています。

耕助 それを先に言えよ。

耕助、歩きだす。小野寺、ついていく。

二人、廃坑を出て、戻っていく。

耕助 やっぱりお前、刺客じゃねえか。

小野寺 そんな大げさな。

耕助 お前が話したことがホントかうソか、こっちはわからねえ。ただの詐欺師の可能性もある。

小野寺 そう思うでしょうね。今はそう思ってもらって構いません。

耕助 ただ、こつちも鳴瀬の将来を考えたら、簡単に見過ごすこともできねえ。

小野寺 …はい。

耕助 だから、まずはみんなに聞いてみてえ。いいな？

小野寺 はい。

⑩よそ者

真希、一人で登場。あたりは暗くなり始めている。

橋から川を見ている。

斉藤、登場。

斉藤 お待たせ。

真希 …

斉藤 行きましょう。

真希 すいません。今日はいいです。

斉藤 あれ？バイトは？

真希 今日はやめます。

斉藤 え？いいの？

真希 はい。

斉藤 珍しいね。そういうこと、しないじゃない。

真希 ……

斉藤 どっか遊び行く？

真希 ……

斉藤 行こうよ。たまにはいいんじゃない？カラオケとかさ。

真希 いいなあ、斉藤さん。適当で。

斉藤 だろう？真面目なんだよ、真希ちゃん。いいんだよ、もつと適当で。

真希 (斉藤をじつと見て) 斉藤さんとの子供ってどんな感じだろう？

斉藤 え？…何？いきなり。

真希 いや、私と斉藤さんの子供ってどんな感じだろうと思って。

斉藤 ……わりとバランスいいと思うよ。真面目と適当がいい感じでブレンドされて…

真希 そうか。

斉藤 ……相談乗ろうか？真面目な話、オレもそろそろ、その…

真希 適当！ホント、適当！

斉藤 え？…いやいや、わりと本気よ？オレ、わりと…

真希 水野さんに言ってもいい？

斉藤 …ごめん。それはちよつと待って…悪かった。

真希 いいんですか？でも。

斉藤 何が？

真希 水野さん、人妻じゃないですか？裕美ちゃん。いいんですか？

斉藤 何が？

真希 斉藤さん、メチャクチャ、アタックしてんじゃん。

斉藤 何で知ってんの？

真希 そういうところでしょ、ここは。

斉藤 まあなあ…違う。俺はただほつとけないのよ、裕美ちゃんを。だって、一人で子供産んで育てるなんてさあ、こんな山奥で。裕美ちゃんも元々ここ出身ってわけじゃないし。同志って感じよ。

真希 自分の子供じゃなくても愛せます？

斉藤 いや、だからそういうのじゃないって。

真希 もしそうになったら？です。

斉藤 そうなったらそうするよ。そうしない理由がある？愛さない理由ある？家族が三人になって喜ばないやついるか？

真希 おお、そうか。

真希、歩いて行く。

斉藤 ねえ！本当にやめてよ、今のこと言いふらすの。

真希 まあ、はい…さあ。

斉藤 え？ちよつと！

真希、歩いて行く。

柳沢、買い物袋持って登場。

斉藤、去る。

真希 (会釈する)

柳沢 あ、真希ちゃん。

真希 今、帰りですか？

柳沢 そう。スーパー寄ってて。

真希 あの…今日、泊めてもらってもいいですか？

柳沢 え？…何で？

真希 …。

柳沢 いいけど…構ったりできないよ。

真希 もちろん、もちろん。

柳沢 じゃあ…

真希 ありがとうございます！

柳沢の家にとどり着く。

柳沢 どうぞ。

真希 お邪魔します。

柳沢 お茶、飲みたかったら冷蔵庫から出してね。

真希 あ、はい。大丈夫です。

柳沢 喋りたいことがあつたら喋って。こっちからは特にないから。…ちよつと失礼して。

柳沢、ウィツグを取って、ショートカットになる。

真希 かつこいいい。

柳沢 暑くて。

真希 いつもそつちでもいいんじゃないですか？もう。

柳沢 うん、まあ、面倒くさいから。会社では色々。

真希 ちゃんとしてますね。

柳沢 スイッチ切り替えてるだけ。

柳沢、音楽をかける。

間。

真希 …子供が欲しいんです。

柳沢 へえ。

真希 夫はいなくてもいいから、子供だけでも欲しいんです。そういうのってないですか？

柳沢 うーん、ないや。

真希 私、あるんです。そのことを考えだすと、手のひらに汗かくぐらい、焦ってくるんです。私、子供つくれるんだろうかって。つくっていいのかなって。

柳沢 いいんじゃないの？別に。

真希 鳴瀬の、この土地の血が流れてるってだけで混乱してくるっていうか。小さい子連れてる人を見ると、動揺しちゃって。いいなあっていうのと、羨ましいっていうのと、同時に猛烈に悔しいって気分にもなって。あ、ほら。

真希、柳沢の手に触れる。

柳沢 うわビショビショ。

真希 ね？すごく欲しいんです。バイトしててもそればかり考えて、止まらないんです。

柳沢 へえ、大変だ。

真希 ないですか？

柳沢 ない。子供、嫌い。というか、どうしていいかわからない。疲れちゃう。

真希 そっか…

柳沢 あ、でも気にしないで。それで？

真希 で、色々考えてたら、私、もうこうなったら別に自分の子供じゃなくてもいいかなって。

柳沢 え？だって。

真希 そう。だって、私自身、血とかこだわりたくないし、もう盗んじゃえくらいの勢いで欲しいんです。

柳沢 すごい。

真希 子供がいれば、それで一緒に過ごしてたらなんとでもなるって。

柳沢 何だ。

真希 子供の笑い声ってたまなくて。麻薬みたいにすぐられるんです。でも、ここにはそれがなくて。

柳沢 じゃあ、子供の楽園をつくっちゃえば？ここに。僕は嫌だけど。

真希 そうか！ここに子供が集まる場所を作ればいいのか：なんだろう、温水プールとか、アスレチックとか？でもできるかなあ、そんなこと。

柳沢 どうして？

真希 だって、また土が汚染されてるとか言われてさあ。

柳沢 まあね。

真希 そう思いませんか？

柳沢 そうかもね。

真希 未来ないですよ、子供の声が聞こえないところなんて。真面目な話。

柳沢 まずいねえ。

真希 そんな呑気に。

柳沢 呑気じゃないよ。困るよ。

真希 じゃあ、一緒に考えていきましょよよ。

柳沢 真希ちゃんって、真面目なんだね。

真希 え？そうですかね。

柳沢 いや、ずっと鳴瀬から出ていきたいんだと思ってた。

真希 基本はそうですけど…どうですか？一緒に考えません。まずはすごい小さいことでもいいんで。

柳沢 …いや、いや。

真希 え？…どうして？

柳沢 目付けられたくないから。僕、ここ追い出されたら、行くところないし。

真希 …

柳沢 いや、真希ちゃんを否定してるわけじゃないんだ。なんか、まぶしいんだよね、真希ちゃん見ると。でも、僕は違うから。ここに隠れてるっていうのかな。逃げ出してきたんだよ。隠れ家なの。でも、やっと見つけた隠れ家だから、すごい大切なわけ…だから、そっとしておいて欲しいんだよね。

真希 …そっか。

柳沢 うん…そろそろ寝るね。まだ何しててもいいから。おやすみなさい。

真希 …おやすみなさい。

柳沢、別の部屋に移動し、去る。

真希、じつと何かを考えている。

⑪会議

昼。集会所。

スズと快人以外の住民が集まっている。

耕助と小野寺、皆の前に立っている。

古細菌の説明が終わった後のよう。

耕助 どうかねえ？

皆、顔を見合わせている。

千葉、手を上げる。

耕助 タクちゃん。

千葉 研究所とか言われてもピンとこねえな。

小野寺 最新で安全な施設になる…らしいです。

千葉 らしいって。

小野寺 でも、本当に作るからには、最大限の安全を…

千葉 なあ、こんな寂れた村に、そんな科学のエリートたちが乗り込んできて、鉾山を好き勝手につつかれたら、また何が出てくるかわかんねえぞ。ガスだの鉛だのって。

小野寺 まだ調査してみないとわかりませんが、安全には十分注意しますので。

千葉 そういう言葉も聞き飽きたねえ。

義彦、手を上げる。

耕助 (義彦を指して) はい。

義彦 いや、拓司さんはそう言うけど、でも鳴瀬の将来を考えると、これはいい話なんじゃねえかなとは思うよ。

千葉 将来もクソもねえよ、ここには。

義彦 極論でしょう、拓司さん、それは。だって、現にまだこの先あるわけだから。僕も家族も。そのへんは慎重になったほうがいいですよ。

真希 でもそれでまた鳴瀬が汚染されたら、元も子もないっていうか、同じこと何度も繰り返してるバカじゃないですか。だから、そうならないように…

真希 絶対はないんだから、うまい話にホイホイ乗ってしまうのは、

義彦 そんなことは言っていないよ。

真希 まだ喋ってるんだけど。

義彦 大体お前は出て行きたいんだろう？鳴瀬を。

真希 え？行けないの？地元を考えて発言するのもダメなわけ？

義彦 そんなことは言っていない！

志乃 ちよつと！そういうのはウチの中でやってよ！

耕助 真希ちゃんさあ、やっぱり出ていくつもりなら、正しいこと言われれば言われるほど、こっちは白けるってところあるよな。

真希 出ていくかどうかは…まだわかりません。ただ、鳴瀬がまたメチャクチャにされるのは嫌だなあって。

志乃 そうやってカツコイイこと言って。

真希 え？

志乃 いや、私も研究所については反対よ。でもね、こっから出ていきたいとか、お義母さんとか透くんも受け入れれないとか、そんな子供っぽいこと言ってる人の意見なんか聞けるわけないじゃない。

啓子 いや、志乃さん、

真希 それ、全然関係ないじゃないですか。

志乃 あるわよ。全部関係してるわよ。そんなことわかんなくてどうすんの？

啓子 違うの、違うの。真希ちゃんは悪くない。私がちゃんとしてないから。

真希 いえ、そんなことないです。ちゃんとしてますよ。ただ、合わないだけです。

透 いや、難しいっすね、連れ子同士の結婚ってのは、実際。おいら、そう思うなあ。どうしたもんかな、これ。ねえ？ お姉ちゃん（お水の人を呼ぶように）。お姉ちゃん。

真希 あんたが一番合わないって思ってる。

透 おっと、これは手厳しい。

耕助 まあまあ！取りあえず、じゃあ、決を取ろう。はい！研究所の建設に賛成の人は？

柳沢、手を上げかけるが、周りを見て下ろす。

義彦、手を上げる。その後で耕助、手を上げる。

耕助 反対の人。

斉藤、千葉、志乃、百合子、水野、柳沢、透、真希、手を上げる。

耕助 うん、よくわかった。とまあ…そういうことだ。その研究所のことは諦めて他当たってくれ。ここにはいらねえ。うん、そういうことらしい。

小野寺 …受け入れるしかないです、かね？ちよつと考えさせて下さい。

耕助 ただ、まあせつかく来たんだ。ゆつくりしてつても構わねえよ。研究所の話はあれにしても、なんかノーベル賞級の発見があるかもしれないねえからな。この先生の滞在に反対の人はいるかい？

誰も手を上げない。

耕助 はい。ということでしょうか？

小野寺 はい、ありがとうございます。

耕助 ただ、ずっとテント生活つてのもあれだろう？…なあ、誰かこいつを泊めてくれるやつはいねえか？

間。

耕助 …まあ、これもしようがないか。

水野、手を上げる。

耕助 お！

水野 …あの、うちは別室というか、現像室があるんで。そこでよければ…

小野寺 ありがとうございます！

斉藤 え？大丈夫？

水野 何が？

斉藤 だって、お前（水野に）…男だぞ。

水野 だから、別室だって。

斉藤 ああ、そう…

小野寺 あの、寝るスペースだけあれば。

水野 本当、狭いです。

小野寺 全然、全然。こっちは何でも一人でやりますんで。お気遣いなく。

耕助 じゃあ、まあ、そういうことで。今日はお開き！

斉藤が扉を開けると、そこにスズがいる。

斉藤 おっと！

耕助 また厄介なのが…

スズ ヤマはいじるな。ヤマをいじるととんでもねえことになる。カッパのカミばかりひいきして、クマのカミをほっときすぎだ。いつかバチ当たるぞ！ずっと言ってるんだ、こっちは。クマのカミを一刻も早く祀られてよ！そうしないと、いつか大変なことになるぞ！

耕助 スズさん、わかったよ。いじらないから。大丈夫だって。今、皆でそう決めた。

スズ クマのカミはどうなる？

耕助 それも準備はしてるから。大丈夫だから。な？今日はもう寝よう。
皆、集会所を出て行く。

⑫ 親密な時間

夜。水野家。

水野、小野寺、登場。

二人でお茶を飲んでいる。

水野 南米のお茶。

小野寺 美味しいです。

水野 ちょっとクセがあるけど。

小野寺 僕はそつちのほうが。すいませんね、なんか。

水野 全然。逆に狭くてごめんなさい。

小野寺 全然、そんな。快適です。(水野の大きいお腹を見て) もうすぐですよね。

水野 うん。二週間後かな、予定日は。

小野寺 もうすぐだ、本当に。言ってくださいね、困ったことあったら。

水野 うん。そのつもり。だから来てもらったってとこあります。ごめんなさい。

小野寺 ご飯とかも作りますよ。僕でよければ。

水野 ありがとうございます。

小野寺 はい。

水野 慣れましたか？

小野寺 そうですね。

水野 変な人、多いでしょう？

小野寺 そう…ですね。独特な方が、はい。

水野 人見知りの人が多いんで。

小野寺 はい。

水野 だから、この前話してた、あの…細菌の話…

小野寺 古細菌ですね、はい。

水野 そう。その話もまだみんな実感がわかないってことなんだと思います。

小野寺 なるほど。じゃあ、もつとわかりやすく説明したほうがいいんでしょうね。

水野 どうかなあ。

小野寺 あれ？

水野 いや、そういうことじゃないかも。

小野寺 どういうことですか？

水野 小野寺さんを好きになれるかどうか大きいんだと思う。

小野寺 僕を？

水野 そう。口ではいいこと言っても、すぐに裏切るような人じゃないか、どうか。それだけが基準。

小野寺 うーん。どうすればいいんですかね？

水野 ここに住む気、ありますか？

小野寺 ありますよ。だって、調べることはいくらだってありますから。

水野 独身ですか？

小野寺 はい。

水野 彼女は？

小野寺 え？ああ…なんか、面接されてるみたいですね。

水野 ごめんなさい。でも、私も小野寺さんってどんな人なんだろう？って思って。

小野寺 彼女は…いました。でも、ここに来る前に、別れちゃいました。

水野 あ、そうなんですか。ごめんなさい。

小野寺 いえ、僕が研究者なので、その、研究室にこもると、一ヶ月とか休み取らないとか普通なんですよ。愛想尽かされたというか。古細菌に嫉妬して、知らないうちに古細菌の資料とかゴミ箱に捨てられたりしたことがあって。僕もカッとして、怒鳴ったら「気付いてないかもしれないけど、あなたは病気だよ、病気。二十四時間、古細菌のことしか考えていない」って言われて。でも、それ凶星だったんで何も言えなくて、そのまま何となく終わってしまいました。

水野 夢中なんですね。

小野寺 まあ、自分では普通のつもりなんですけど…

水野 いや、うちのダンナも似たようなところあって。写真が全てって言うか、野生の鳥を追うのが好きで、それを追って、自分も飛んでくみたいな。アホみたいに。

小野寺 へえ。奥さんいるのにねえ。

水野 全然。見向きもしない。ここに住んだのだって、鳥が目当てみたいなのがあった。

小野寺 僕も彼女と同棲してた場所は研究所のすぐ近くでした。

水野 わー、やだやだ。

小野寺 本当、恥ずかしいなあ、なんか。

水野 どこがそんなにいいんですか？その、なんか、ばい菌のやつ。

小野寺 古細菌。

水野 ああ、それ。

小野寺 どこって…全部。

水野 わ、デジャブだ、そういうの。ウチのダンナと一緒に。

小野寺 すいません。

水野 ううん。でも、聞きたい。聞いておきたい。

小野寺 あ…古細菌は謎の生物なんですよ。例えば…僕たち人間とか動物も植物もカビも同じ種類だと考えると、

水野 カビってあのカビ？それも一緒？

小野寺 はい。それら全て含めて細胞の中に「核」ってものがあるんです。

水野 ああ、核ね。昔、習ったかも。

小野寺 そうです。日の丸弁当の中の梅干しみたいな図とかのあれです。

水野 そうそう、日の丸ね。

小野寺 はい。で、それとは別に原核生物っていうものがあって、これには「核」がないんです。バクテリア、つまり、細菌

と呼ばれるものです。で、今までは地球上の生物は、核を持つもの、持たない者、この二つの分類で研究がされて来たんです。でも、古細菌が発見されてからは、どうやら、古細菌という生物の系統も存在していることがわかったんで

す。古細菌も「核」がないんですが、細菌とは違った系統なんです。だから、一言で言うと、今まで見えてなかった、第三の生物の進化というか、歴史があることがわかったんです。

水野 ほうほう。熱弁ですね。

小野寺 だって、この地球が億年の歴史の中で、全然違う進化を辿った生物がいたってことですよ？

水野 ……

小野寺 あ、聞いてました？

水野 はい…いや、ごめんなさい。ダンナのこと思い出してました。

小野寺 え？どんな？

水野 その、自分の熱い思いを押しつけてくるっていうか。

小野寺 あ、

水野 あ、いや、すいません。つい思い出しちゃって。あの、別に彼女は、

小野寺 え？

水野 小野寺さんの彼女はその、ばい菌には嫉妬してないと思いますよ。

小野寺 ああ。

水野 そうやって、こっちがおかしくなったみたいなこと、なんで言うんですか？

小野寺 いや、別に水野さんには、

水野 一緒にいて欲しかったんですよ。なんでそんな簡単なことがわからないんですか？

小野寺 そうですね…

水野 あ、ごめんなさい。なんか、ダメだ。

小野寺 いえ。

水野 え、それでその、古細菌を研究すると何がわかるんですか？

小野寺 え？ああ…押しつけけないように気をつけますが、

水野 あ、気にしないでください。

小野寺 ええ。あの、つまり、私たちの祖先がわかるんです。つまり、古細菌って、人間や植物に似てるんです。乱暴に言うと、今まで父親だと思ってきた人が実は違って、別の人がいきなり父親だったことがわかるっていうか。まあ、ちょっと違うか。でも、だから、人間の進化の歴史も古細菌を研究すればもっとよくわかるんじゃないかっていうことです。しかも、この古細菌っていうのが、生きてるか死んでるかわからないような異色の存在なんです。全然活動しない。これが人間の祖先だと思つと、かわいくないですか？

水野 え？…別に…

小野寺 そつか…すいません、長々と。

水野 思い出し嫉妬、しちやいますね。

小野寺 え？

水野 小野寺さんにじゃなくて。

小野寺 ああ。

水野 そうやってダンナも鳥のことばっかり話してて。おいおい、目の前に奥さんいるのにそれかよって。貴重な時間なのになんだよ、もうって。

小野寺 ……すいません。

水野 いえ、今は違いますけど…（お腹をおさえて）あ、ちょっと…ごめんなさい、横になります。

小野寺 大丈夫ですか？

水野 大丈夫。なんかその、ナントカ菌の話に興奮しちゃったのかな、この子。

小野寺 古細菌。

水野 ああ。

小野寺 ありえますよ。だって、胎児だってお腹の中で、それこそこんなちっちゃいところから、ここまで大きく進化するって言われてるんですから。魚が陸に上がって、両生類になって、そこから爬虫類、哺乳類って…すごいことですよ。今もちようど進化の途中なんですよ、きっと。

水野 ……

小野寺 大丈夫ですか？

水野 （目を押さえて）ダメだ…なんか気持ちかがグラグラしてて、最近…ごめんなさい。

小野寺 何かあったら、呼んでください。

水野 ありがとうございます。

小野寺、去る。

⑬ カツパ祭り

午後。集会所。

お囃子が鳴っている。

耕助、義彦、志乃、百合子、千葉、啓子、柳沢、透、立っている。

スズは座っている。眠っているようにも見える。

斉藤、うなだれて座っている。

耕助 (マイクで) では、発表します…今年のカップは…小野寺道雄くんです。

まばらな拍手が起こる。

耕助 道雄くん、どうぞ。どうぞこちらに。

小野寺、照れながら登場。

小野寺 すいません、なんか。

耕助 こっち、こっち。これ、持って、持って。

耕助、カップの皿を持つ。

そして、小野寺に手渡す。

小野寺、お辞儀をして受け取る。

皆、拍手などする。

耕助 おめでとう！まさかこんなに泳げるとはねえ。

小野寺 あ、どうもありがとうございます。泳ぎはわりと得意なんで。

耕助 かぶって、かぶって。

小野寺 え？今？

耕助 うん。

小野寺 (かぶつて) こうですか？

耕助 そうそう。ちよつとしゃがんで。

小野寺 あ、はい。

小野寺、しゃがむ。

耕助 おーい！

義彦が日本酒を持ってきて、皿に注ぐ。

小野寺 え？…え？

皿に入った酒を皆が飲んだり、身体にかけたりする。

周りに礼をしたり、「お先に」「失礼します」など小声で言いながら。

小野寺、気を使って、座ってる斉藤の前に行く。

小野寺 お疲れ様でした。

斉藤 …

斉藤、去る。

小野寺 あれ？

千葉 まあ、去年までずっとカッパだったから悔しいんじゃないの？

志乃 秀ちゃん、そういうところがまだ子供なのよ。

小野寺 いや…

一通り回ったら、皆で拍手する。

耕助 お疲れ様。

小野寺 あ、どうも。これ、取ってもいいですか？

耕助 どうぞどうぞ。

義彦 似合うよ。カッパっぽいよ。なあ？

啓子 そうですね、この辺とかツルツルしてて…

小野寺 (指摘されたところを触りつつ) ああ…

透 …俺、帰っていい？

啓子 え？ちよつと待って。

義彦 透。挨拶だけ。なあ？

耕助 どうも。こんにちは。

透 (会釈する)

耕助 おお！透ちゃんも来年は出たらどうよ？

透 いや、それはちよつと…

耕助 ハハハ！そうだなあ。沈むか、プカプカ浮かんで流れてくか。

透 死ぬ自信ありますよ。

啓子 だから、少しは運動しなさいって言ってるんですけどね。

耕助 いいの、いいの。無理しなさんな。

義彦 来年は高校も卒業なんですね。それで、あの…ぜひ何かあったら、耕助さんにご紹介していただけたらと思って、

透 …

耕助 そうねえ。オレももう手を広げてないからねえ。畑ぐらいよ、実際。

義彦 ぜひ。それでも結構ですの。な？

透 え？うん。疲れやすいんで休憩多くして下さい。

啓子 何を言ってるの？

透 だって…

啓子 すみません！

耕助 いい、いい。鍛えなおしてやるから。

透 え？

耕助 しかし、もうそんな年かよ。

義彦 はい、お願いします。

啓子 お願いします。(透に) ほら！

透 …(会釈して)

啓子 ぜひともよろしくお願いします。

耕助 おお！了解、了解。しかし、良かったな、道雄くん。

小野寺 何がですか？

耕助 とぼけちゃって。

小野寺 え？

耕助 研究所の件。もう大丈夫だよ。誰も反対しねえよ。なあ？

志乃 うん。ちよつとびっくりした、私も。この辺の人でもあんなには泳げないって。(百合子に) ねえ？

百合子 すごいです、本当に。

小野寺 ありがとうございます。

百合子 何でもできるなあと思って。

小野寺 そんなことないですよ。

百合子 鳴瀬にはカッパのカミとクマのカミがいるんですけど、これじやますますクマのカミの立場がなくなります。私は昔みたいにクマのカミとカッパのカミに仲良くしてほしいから。ね？スズさん。

スズ (眠っていたのか) あ？

耕助 (話が長くなると思い) いいよ、いいよ、寝てなさいよ。

百合子 カッパとクマが仲良くしてたって話。

スズ 一つの話だ。もうクマのカミはこのへんにはいねえよ。それが証拠にクマが暴れまわつとる。

百合子 だから、クマのカミを祀らないとでしょう？

スズ 今更だわ。

百合子 もし研究所をつくるなら、クマの神社もつくって祀ってあげてください。

小野寺 はい。いいですね、それは。

百合子 スズさん、それなら少しヤマをいじっても大丈夫だよ？

スズ あー？

志乃 カップパ男が道雄くんなら、斉藤くんがクマ男にでもなってもらったらどう？

スズ ダメだわ、そんなのは。クマのカミの使いは女って決まってるんだ。カップパ男にクマ女。その間に入るのが人間で、その神さまがヒトカミちやま。コイツは男でも女でもねえ。

小野寺 あー、そういうのがあるんですか。

百合子 ジャンケンもね、ここでは昔からカップパー（パー）、ヒトチョキ…ヒツチョキ（チョキ）、クマ（グー）って言うの。

耕助 そんなの、いいだろう、今は。

百合子 だって、鳴瀬のこと、わかって欲しいし。

小野寺 ヒトカミちやまっていうのはどこに？

百合子 （胸に手を当てて）ここに。みんなのここに宿ってるんです。

耕助、マイクを持って言う。

耕助

はいはい！ちよつと、みんな聞いてくれ。…道雄くんはね、これからもここで暮らしていきたいそうだよ。それでな、今のところは水野の裕美ちゃんの所で仮住まいって感じだけど、いずれ、あの川沿いの昔の木本屋の宿をよ、改装して住んでもらつてもいいかなと思つてんだ。どうかね？

皆、拍手をする。

耕助

そんでな、古細菌だっけ？

小野寺

あ、はい。

耕助

そつちの方の研究所もつくつてもらつてもいいんじゃないかと思つてよ。みんなの意見はどうよ？

千葉以外、皆、拍手する。

耕助

(指を丸めて) コレも入つてくるみてえだしよ。

千葉

おい、大丈夫か？それ。

耕助

いや、今度はあれよ。国も関わった組織らしいわ。独立行政法人って言つてよ。

千葉

俺はやっぱ反対だ。

小野寺

…

千葉

うまくいくわけねえと思つてる。死んでんだぞ、みんな。うちの母親も。耕助さんとこだつて、洋次郎さん(耕助の父)も咲ちゃん(耕助の妹)もみんな。なかったことにできねえだろう、それは。

耕助

振り返つてばっかじゃ進めねえから。

千葉

誰かが覚えてなきや救われねえよ。

耕助 吊ってるだろうが。川で死のうが、ヤマで死のうが、このへんで死のうが、カツパのカミもクマのカミもヒトカミちやまも皆見てるんだからよ。

間。

千葉 …まあ、でもよ、他のやつがいいって言うならいいよ。ただ俺は言いたいことは言う。それだけだ。

小野寺 ありがとうございます。はい、頑張ります。

志乃 せっかく作るなら、温泉とか温水プールとか、エステもつけて欲しいけどね、その隣に。

耕助 そうだよ。それぐらいはわがまま言いてえなあ。

小野寺 まあ、僕の方でどうなるかはわかりませんが、そういう名所になればいいですね。

耕助 おー！鳴瀬にも明るい未来が見えてきたぞ！というところで…えー、じゃあ、この後はお待ちかねの宴会の方に…

斉藤、飛び込んでくる。

斉藤 生まれたぞ！

志乃 え？本当？

斉藤 さつき！今！

耕助 おー！

千葉 そうか、そうか。

小野寺 行きませんか？ちよつと顔見に。

千葉、義彦、耕助、顔を見合わせる。

耕助 そうだな。行ってみるか。

義彦 うん。

小野寺の前に、斉藤が立つ。

小野寺 え？何？

斉藤 あんたはいいよ。ここにいろよ。

小野寺 どうして？見たいですよ、はやく。

斉藤 亭主ヅラすんなよ。

小野寺 は？

斉藤 何、調子に乗ってんだよ。

耕助 おいおい、どうした？

志乃 秀ちゃん、あんた、ちよつとみつともないよ。

斉藤 …

志乃 気にしないでいいよ。行こう！ほら！

小野寺、斉藤を避けて行こうとするので、斉藤、掴みかかる。

もみ合いが始まって、他の人達がそれを止めようとする。

「やめろって」「ほら、放しなさい」など口々に言う。

斉藤 おい！おい！軽い気持ちで行くんじゃねえ。

小野寺 軽くないですよ。何言ってるんですか！

斉藤 お前はよそもんだ。

小野寺 そうですよ。だからなんですか？あなただってそうでしょう？

斉藤 そうだよ。でも俺はわかってる。こういう時どうすればいいか…裕美ちゃんからどう聞いてるか知らねえけど、俺がこんなこと言ってもいいのかあれだけど、

小野寺 なんですか？

耕助 おい！秀ちゃん、やめとけ！

斉藤 あの子は、今生まれた子は、ダンナの子じゃねえ。

小野寺 え？

斉藤 誰だかわかんねえんだよ、父親が！

小野寺 …

斉藤 だからよ、うかつに近づくんじゃねえよ。

小野寺 それはその…

斉藤 鳴瀬の連中はみんな知ってることだ。

千葉 もういいよ。それ言ってる何になる。

斉藤 いや、こいつ鈍感だからさ、

志乃 ここで言っちゃうあんただって相当だよ、バカ！

柳沢　まずは行きませんか？裕美ちゃん、待ってるだろうし。

啓子　行きましょう！とにかく。

透　先、家帰っていい？

啓子　なんで言ったそばからあんたは！

透　だって、面倒くさそうだし。

耕助　行くぞ。ほら！…ゴチャゴチャ言っても始まらねえ。

皆、ぞろぞろと去る。

斉藤、うなだれている。

スズ、何かを祈るような姿勢になる。

スズ　おい！

斉藤　は？

スズ　連れてけよ、赤ん坊のところに。疲れた。おんぶしろ。

斉藤　はい。

スズ　新しいカミちやまの誕生だ。

斉藤、スズをおんぶして去る。

⑭晴天

春。

一幕から半年以上経過している。

昼。

安藤家。

百合子、染め物の色味などを確認している。

千葉家。

千葉、表に出て畑仕事をしている。

スーパー。

斉藤、暇そうにレジの前のイスに座って、漫画などを読んでいる。

立花家。

啓子、登場。

テーブルに突っ伏している。

そして、真希、部屋から起きてきて登場。

啓子 (突っ伏したまま、ちよつとごまかすように) あ、帰ってた？

真希 うん、ただいま。

啓子 (起きて) まだ寝るでしょう？

真希 うん。

啓子 ちょっと出かけてくるね。

真希 はい…どうかしました？

啓子 何でもない。ちよつと眠くて。

真希 大丈夫ですか？お父さんと揉めてました？

啓子 あ、聞こえてた？でも大したことじゃないから、うん。じゃあ、行ってきます。

真希 行ってらっしゃい。

啓子、歩きだす。

真希、そのままぼーっとしている。

呉家。

スズ、イスに座って眠っている。

水野家。

ベビーベッドが置いてある。

小野寺、登場。

廃坑から戻ってきたところのようである。

手にランタンか懐中電灯などを持っている。

小野寺、歩いて行く。

千葉家の前を通る。

小野寺 こんにちは。

千葉 おう。ヤマ？

小野寺 はい。(懐中電灯かランタンをかざして) でもちよつと電池切れちゃったんで、スーパーまで。

千葉 なんか、持っていく？

小野寺 あります？

千葉 キヤベツとかなら。

小野寺 あー、嬉しいです。

千葉 これだけ持っていく。

千葉、スーパーの袋に入ったキヤベツを渡す。

小野寺 すいません。

小野寺、歩いて行き、安藤家の前を通り過ぎる。

百合子 小野寺さん！

小野寺 あ、百合子さん。

百合子 (窓から顔を出すようにして) 見つかりました？

小野寺 今日はこんなですね。

小野寺、百合子に鉱石を渡す。

百合子 マーブルチョコみたい。

小野寺 たぶん、金も含まれてるとは思いますが、ココとか。

百合子 あ、ホントだ。少しキラキラしてる。

小野寺 それだけじゃ全然価値ないですけどね。

百合子 でもきれい。

小野寺 あげますよ。

百合子 ありがとう。あの、これ…

百合子、ピンク色の手ぬぐいを小野寺に渡す。

小野寺 うわー、きれい。

百合子 桜染めです。使ってください。

小野寺 いいんですか？

百合子 はい。ホントはカップ男のコスチュームとかも作りたいんですけど。

小野寺 いいですよ、そんな。

百合子 わりと得意なんです、縫い物とか。いつももらってばかりで申し訳ないし。

小野寺 何言ってるんですか。こんないいものいただきちゃって。

百合子 そんなの。

小野寺 ああ、そうか！百合子さん、自分の服作ったらどうですか？

百合子 私の？

小野寺 はい。いつも僕には、こんないいものくれるのに、百合子さん自身はわりと無頓着に見えるから。出過ぎたこと言うてアレですけど。

百合子 いえいえ。私のは。

小野寺 じゃあ、例えばこの鳴瀬をモデルにした斬新な服というか、鳴瀬の服みたいな。

百合子 うーん…

小野寺 ここはね、百合子さん、鳴瀬はこれからあつという間に変わっていきますよ。古細菌を中心にした先端科学と、ふるさとのよさがいっぱい詰まった集落になっていきます。先端科学と伝統の融合。それでまた鳴瀬が賑わう日が来るようになります。

百合子 伝統は廃れてるし。

小野寺 カップ男がいるじゃないですか？食も温泉も服だって草木染だって、これからは鳴瀬から世界へ発信していかないと。

百合子 …やってみようかな？できるかどうかわかんないけど。

志乃、登場。

小野寺 あ…

志乃 あらー！いらしてたの？

小野寺 こんにちは。

志乃 似合うわよ、とつても。ねえ？

小野寺 いやいや。

志乃 (小野寺が持つてるキャベツを見つけて) それは？

小野寺 さつき、千葉さんのところでもらつて。

志乃 あら、なんか持つてく？玉ねぎあるけど。

小野寺 いえ、またこれからヤマに戻るんで。また今度。

志乃 じゃあ、ちよつと休んでいったら？

小野寺 いえ、まだちよつと途中なんで。またゆつくり。

志乃 え、そう？ちよつとぐらいいいじゃない。

小野寺 いや、いつもごちそうしていただいでるんで。

志乃 当たり前じゃない。どうしてごちそうしないの？鳴瀬の英雄を。カッパ男を。

小野寺 やめてくださいよ。

志乃 もてなさなかつたら、こつちがバチ当たるもん。

百合子 お母さん、困ってるじゃない。

志乃 じゃあ、百合子、一緒に行つてらっしゃい。

百合子 え？

志乃 だって、あんたクマ女になりたいんでしょ？

百合子 何それ。

志乃 言ってたじゃない、この前。そうしたら鳴瀬も安泰だつて。なっちゃんよ。

百合子 なっちゃんなつて、適当なこと…

志乃 お手伝いしてきな。カッパ男とクマ女の相性は抜群なんじゃない？

百合子 違うから、私は。

志乃 ウチじゃ小野寺さんの話ばかりしてるんですよ。

百合子 やめてよ、本当。すぐそういうこと言つて。

百合子、家の中に入るように去る。

志乃 あらら…怒られちゃつた。

小野寺 はあ。

志乃 当たり前じゃない？女が男の話するなんて。ねえ？

小野寺 そりゃ、はい。うれしいですよ。

志乃 どんな好みなの？カッパ男さんは。

小野寺 え？いや…

志乃 百合子みたいのはどう？

百合子 (声のみ) おかあさん！

志乃 ごめんごめん！ちよつと畑から玉ねぎ持つてつてもらおうから。こっち、こっち来て！

志乃、小野寺、畑の方に移動する。

志乃 これ、持ってって。(玉ねぎを渡す) …(小野寺の腕を持ち、ちよつと声を潜めて) いいのよ、カップ男は自由に泳ぎ回って。

小野寺 え？

志乃 鳴瀬じゃね、

小野寺 はい。

志乃 (玉ねぎを再び渡して) 何でも交換できるんだから。野菜もらったら何かお返しするのと同じ。物じゃなくてもいいの。逆にね、こつちもさ、働いてもらったらお返ししたいじゃない？それをさ、受け取ってもらえないかなってこと。こんな玉ねぎじゃなくてさ。

小野寺 そうですね。まあ、(懐中電灯を示して) こつちが一段落したら考えます。

志乃 真面目ねえ。

小野寺 そんなことないですよ。

志乃 じゃあ、見せてよ。

小野寺 え？何をですか？

志乃 真面目じゃないとこ。

小野寺 …

志乃 また、ほら真面目。

小野寺 ああ…はい。

志乃 カギは開いてんだから、いつでも来てね。あんまり来ないようだったら、こっちから行くわよ。

手に包帯を巻いた啓子、登場。

志乃 あら！啓子さん。

啓子 こんにちは。

小野寺 こんにちは。(玉ねぎ) もらっちゃって。

啓子 あ、うちにもちよつとありますけど、何か持って行きますか？

小野寺 いえ、また今度！それじゃ。

志乃 はい！

啓子 はい。

小野寺、歩いて行く。

啓子 あの、今、ちよつといいですか？

志乃 どうぞ、どうぞ。

志乃、啓子、安藤家に入っていく。

啓子 お邪魔します。

志乃 どうぞ、どうぞ。

啓子 はい。

志乃 今、お茶入れます。

啓子 すいません。

志乃、去る。

啓子、待っている。

小野寺、歩いて行く。

その近くを快人が通る。

小野寺 あ！…すいません。すいませーん！

快人、無視して去る。

小野寺、少し追いかけるが快人は去ってしまった。

小野寺 (目を開けたり閉じたりして) …いや、いたよな、確かに…

立花家。

真希がいるところに、義彦、登場。

義彦、テンションが高い。

義彦 ただいま。

真希 …

真希、去ろうとする。

義彦 どうなんだ？最近は。

真希 …何処行ってたの？

義彦 いや？散歩だよ。メチャクチャいい天気だぞ！

真希 泣いてたよ、啓子さん。さつき。

義彦 ……

真希 ケンカ？

義彦 あつちがちよつと爆発したんだ。

真希 どういうこと？

義彦 さあ。透くんが仕事にも生活にもあまりにもやる気ないからさ。ちよつと活を入れようとしたんだよ。そしたら、突っかかってきて。

真希 珍しい。

義彦 うん。

真希 ほっとけばいいのに。

義彦 ほっとけない。

真希 なんで？透だって窮屈じゃん。

義彦 しょうがない、それは。普通の「家族」じゃないから。普通がどれだけ当たり前のことじゃないか、わかって欲しいからだ。自然のままがいいなんてとんでもない。そんなんじや、やってこれなかったんだよ、ウチは。鳴瀬だってそうだ。みんなが努力したからこそ、守ってこれたんだよ。そんな簡単じゃないんだ。

真希 限界があるよ、努力するにも。無理することないじゃん。

義彦 無理をするときにはしないと。今、またここは変化するかもしれない。どういう変化かわからない。俺はチャンスだと思ってる。鳴瀬はまだまだ行ける。そのためにもまず俺たち家族が、本当の家族じゃない家族が、団結する。これは当然のことだよ。

真希 不思議だね。血がながってるのに、その考え方全然わからない。全然バラバラでかまわないと思ってる。

義彦 …お前は母さん似だからな。

真希 出ました。思考停止ワード。

義彦 本当にそうなんだよ。母さんは強くて賢かった。だからお前は無理しなくていいとは思ってるよ。

真希 啓子さんが心配。

義彦 もうしないよ。

真希 わかった。おやすみ。

真希、去る。

小野寺、歩いて、スーパーに着く。

小野寺 こんにちは。

斉藤 …

小野寺 …どうも。ちよつと電池を買いに来て。

斉藤 …

小野寺、店内を見てまわる。

斉藤 単三？

小野寺 え?…単一。

齊藤、言われた電池をもってきて、小野寺に渡す。

小野寺 ありがとう。

齊藤 いつまでいるんですか?

小野寺 え?まだもうしばらく。

齊藤 いや、そうじゃなくて。

小野寺 なに?

齊藤 裕美ちゃんのところですよ、水野さんの。

小野寺 ああ…もう少し赤ちゃんが大きくならないとあれかなあ。

齊藤 別に小野寺さんの子供じゃないでしょう?

小野寺 そうだけど…成り行きだね。

齊藤 裕美ちゃん、優しいから自分では言い出せないんで。察して下さいね。

小野寺 …齊藤くん。

齊藤 …

小野寺 このへんでやめにしない?

齊藤 …

小野寺 もういいじゃない。

斉藤 そっちはよくても、こっちはダメです。

小野寺 どうして？

斉藤 ……何でオレは会えないんですか？

小野寺 え？

斉藤 なんでオレは裕美（ヒロミ）ちゃんの家にも行っちゃいけないんですか？裕貴（ユウキ）くんにも会えないし。店番までしてるのに、全然わかんないんですけど。

小野寺 それは僕にもわかりません。鳴瀬の皆さんの合意ですから。僕はまだ意見言えないし。

斉藤 なんで俺だけ？

小野寺 さあ、それはわかんないですよ。

斉藤 これが村八分ってやつですかね。

小野寺 水野さんにあんまり負担をかけないようにしてるだけでしょう。

斉藤 ……

小野寺 そのうち、きっと。

斉藤 ……裕美ちゃんと一緒になる気はあるんですか？

小野寺 え？

斉藤 小野寺さん、ここに骨埋める気、ありますか？

小野寺 わかんないよ、まだどうなるかは。

斉藤 それじゃ可哀想ですよ、裕美ちゃん、それじゃ可愛そうだって！

小野寺 僕はまだよそ者なんだよ。

斉藤 逃げですよ、それは。

小野寺 全部鳴瀬に合わせてればいいとは思わない。こつちもやりたいことをやる。

斉藤 なんですか？それ。

小野寺 僕はね、この鳴瀬を変えたいと思ってる。やっぱりちよつと、内向きというか、時代に取り残されてると思うんだよ。だからもつと、風通しが良くて、時代を先取りするような、こう、新しい体制にしていければって思う。やっぱりよそ者が入って、かき回して、この鳴瀬の新しい魅力を引き出したっていうかね。

斉藤 ご立派っすね。

小野寺 いや、だからさ、斉藤さんの、君の力を借りたいんだよ。二人で、よそ者同士で鳴瀬を変えていこうよ。

斉藤 …電池はいいんですか？

小野寺 あ、じゃあ…これ。

小野寺、電池を買おうとする。

斉藤 ありがとうございます。

小野寺、歩きだす。

安藤家。

志乃、啓子、話している。

志乃 ちゃんとやっってるみたいよ。

啓子 そうなんですかね？透は何も話さないから。

志乃 まあ、その、いわゆる若い衆みたいな感じではないみたいだけど。気張らないっていうか、現代っ子みたいな感じじゃない？

啓子 でしょうね。

志乃 若い衆の半分くらいしか運べないみたい。

啓子 まあ、でもちゃんと働いてるんなら、アレですけど。

志乃 慣れよ、慣れ。そのうち見違えたようにかっこよくなるんじゃない？

啓子 ええ。

志乃 で、考えてくれた？

啓子 あ、そのことなんですけど、まだ迷ってて。

志乃 ないない、迷うことない。

啓子 どういうことなんですか？

志乃 ボランティアというか、皆で仲良くするための運動って考えてもらえたらなあって。

啓子 …昼間ボーツとしてると、なんか私だけ取り残されてるような気分になって。前は透がいたんだけど、最近は忙しいみたいで、義彦さんも真希もよそよそしい感じで。

志乃 じゃあ、やりましょうよ！歓迎。大歓迎。

啓子 まあ、はい。飛び込んでみようかな。透のことは心配なんですけど。

志乃 大丈夫よ。うちのほうが心配。百合子は一体この先どうすんのかなあつて。全然引っ込み思案で、友だちだとか彼氏だとか、一度もそんなの連れてきたこともない。

百合子 (声のみ) お母さん！

水野、登場。

慌てたように、何かを探しながら歩いている。

水野 誰かー！誰かー！

水野、倒れそうになって、その場にしゃがみ込む。

啓子 あれ？水野さんの声じゃない？

志乃 え？

啓子、志乃、百合子、外に出る。

千葉もその声を聞きつけてやってくる。

志乃 え？…大丈夫？…水野さん？水野さんだよね？

水野 …どこ？

啓子 え？

水野 …どこ？ウチの息子は。

志乃 どうしたの？裕貴（ユウキ）くん、いないの？

水野 どこ？…どこ？…裕貴！、裕貴！

志乃　ねえ!…ねえ、水野さん!…裕美ちゃん。ここにはいないよ。来れるわけないじゃない、こんなところまで。

水野　耕助さん、いますか？

志乃　いないよ。まだ帰ってきてない。

水野　呼んでもらってもいいですか？

志乃　いいけど、どうして？

水野　お願いします！

水野、遠くに千葉を見つけ、千葉に近寄る。

水野　どこ行ったんですかね？

千葉　え？

水野　知りませんか？

千葉　知らないよ。

志乃　ね?なにになになに!落ち着いてよ!…一緒に探すからさ…ここ出てさ…どのへんではぐれたの?え?

水野　どうしよう!

志乃　どうしたの?ちよつと座ったら?

千葉　まあまあ。探してみよう、一緒に。ね?

水野　本当に知りませんか?

千葉　なにになになに。ちよつと、本当に。

スーパーから、斉藤、小野寺もやってくる。

斉藤 え？どうしたんですか？

水野 裕貴がいないの。

小野寺 え？

斉藤 いないってのは…

水野 洗濯物干そうとして、ちょっと外に出てたら、その間にいなくなってたの！

小野寺 周りにもいなかったんですか？

水野 いないの！やっとハイハイできたくらいで、どこ行くわけもないでしょう？

斉藤 うーん。

水野 (千葉に) ねえ、知りませんか？

千葉 だから、さつきから何？

水野 ……

千葉 え？何のこと？

水野 じゃあ、どこ行ったんですか？

千葉 ちよつと混乱してるなあ。

斉藤 どういうことですか？

千葉 さ、さあ、僕にはさっぱり。

志乃 水野さん、千葉さんは関係ないでしょう？

小野寺 千葉さんはだって、僕もさつき会ったばかりだし。

水野 …すみません。誰かがさらっていったんです。

志乃 誰が？

水野 洗濯物干してたらガタンって音がして、イスが倒れてて、ちやうど裕貴はご飯を食べてる途中だったんですけど…窓が開いてて、外には誰もいなくて…本当に誰もいなくて…もうどうしていいかわからなくて…

小野寺 そうですか…まあでもちよつと探してみないことには。

志乃 そうね。まずはね。

小野寺 じゃあ…探しますか、手分けして。

皆、頷く。「じゃあ、僕はこっちで」「私、まずはこっちを」などと言って別れていく。そして、皆去る。

⑮ 行方不明

夜。集会所。

小野寺、耕助、志乃、百合子、義彦、啓子、透、千葉、柳沢、斉藤、がいる。

皆、憔悴している。

間。

千葉 大丈夫か？

斉藤 え？すみません。聞いてなかった。

千葉 大丈夫か？って聞いただけ。

斉藤 大丈夫ですよ。何言ってるんですか。

千葉 ダメだ、これ。

義彦 ねえ、一回解散したほうがいいんじゃないの？

耕助 まあ…後は警察に任せるしかないだろうな。

義彦 色んな可能性があるだろうから。

小野寺 でも、赤ん坊ですよ？死んじやいますよ？

義彦 だから、警察が動いてくれてんだから。

小野寺 それもおかしいですよ。もっと大搜索するべきなんじゃないですか？なんか、警察も全然本腰入れてないじゃないですか？

千葉 それは俺らに言われてもねえ。言ったら？鳴瀬は見捨てられた土地だって。

斉藤 俺ちよつとまだ探してきます。

耕助 待って。

斉藤 待てないですよ。

斉藤、去る。

小野寺 あの、ちよつと関係ないかもしれないんですけど、四十歳くらいで、ペットボトル持って、たまに、本当にたまに見かける方がいるんですけど、誰なんですか？あの人は。

誰かと顔を見合わせたりする者もいるが、それは「何を言っているんだろう？」という反応。

耕助 誰？それ？

小野寺 いるでしょう？え？たまに歩いているじゃないですか…いや、実際僕も最近をよく見えないっていうか、見かけることは少なくなっただけですけど…

千葉 まあ、ストレス溜まってんだよ、研究し過ぎで。

耕助 ヤマで変なガス吸ったとかな。

小野寺 いや、僕見ましたから、この目で。怪しくないですか？その人。

百合子 あ…

耕助 何？

百合子 クマが襲ったということはないですか？ちょうど冬眠から覚めてウロウロしてる頃でしょうし。

耕助 冬眠から覚めたクマは襲わねえだろ。ふきのとう食ってるくらいで。

百合子 そうですけど、赤ちゃんならわからないと思って。

千葉 いや、足あともなかった。

百合子 山菜だって最近取りにくくなってるとし、考えたくないけど…

啓子 川に流されたってことはないですか？

義彦 そういふ可能性もあるけど。ハイハイできたんなら。

柳沢 その、水野さんは大丈夫なんですか？

志乃 寝込んでるけど、真希ちゃんがついてるから。

柳沢 あ…警察は私たちのことも疑いますかね？

耕助 まあ、わからん。

柳沢 そうですか…

耕助 何？

柳沢 いえ、別に。

柳沢、去る。

耕助 まあ、とにかく協力するしかねえよ。

小野寺 ちよつと待って下さい。もつと本気で探しましょうよ。

耕助 探してるよ。昨日からほとんど寝てねえだろうが。もう俺達だけじゃ手に負えねえって言ってるんだよ。

小野寺 探してないところはないですか？まだ。

義彦 全部見てまわったじゃない。

耕助 とりあえず、女子供は家に帰ってくれ。後はこっちでやるから。

透 おいら…

耕助 お前も帰れ。

透 でも…

耕助 こういうときだけいっちょ前の振りするな。十年はやいよ。

志乃　まあ、かわりばんこでやってこう。昼間はなるべく私たちが探して、ね？一回解散。百合子、行くよ。
百合子　うん。

志乃、百合子、啓子、透、去る。

小野寺　僕ももうちよつとだけ。

耕助　：

千葉　どこに行くの？

小野寺　川の方、まだちゃんと見てないから。下流の方。

千葉　やめとけて。

義彦　あんまり勝手に動くと怪我するって。暗くて何にも見えないから。

小野寺　そうだけど、それどころじゃないから。

千葉　こういう時に二次被害が起こるんだよ。いくらライトで照らしても川は危ねえから。

小野寺　じゃあ、黙って待ってるんですか？

耕助　「神隠し」って言葉もあつてな。

小野寺　そんな迷信言ったら、笑われますよ。

耕助　そう思わなきゃやってけないこともあるってことだ。

小野寺　少なくとも今は関係ないでしょう。

耕助　なんでだ？

小野寺 え？

耕助 なんで俺たちのやり方に従えねえ？

小野寺 そういうこと言ってる場合じゃないでしょう？

耕助 大事なんだよ、そういうことが。俺たちはずっと俺たちのやり方でやってきた。毒が川に流れても、ヤマが潰れても、見たこともない現金目の前に積まれても俺たちは俺たちのやり方でやってきた。ずっとだ。そうやって生きてきてんだ。あんたにゴタゴタ言われたくねえ。

小野寺 …

耕助 そういうことなら、研究所の件は白紙に戻させてもらおう。もうヤマにも入ってもらいたくねえ。立入禁止だ。

小野寺 それは全然違う話でしょう？

耕助 違わねえ。全部繋がってる。探すなら勝手に探せ。こっちはこっちで勝手にやる。

耕助、去る。

千葉、義彦、耕助に続いて去る。

小野寺、耕助の去った方向に走っていく。

⑩カミちやま

夜。柳沢の家。

快人が部屋の中に立っている。

柳沢、登場。

柳沢、かつらを取って、音楽をかける。そのまま寝転がる。

間。

柳沢
いるー？

快人
いるー。

柳沢
元気？

快人
元気。

柳沢
こっちは大変だよ、色々。みんなで大騒ぎ。

快人
そう。お疲れ様。

柳沢
僕、ここ出てくかもー。

快人
：

柳沢
もうここにいられない。

快人
どうして？

柳沢
僕ねえ、人殺してるんだー：僕、その人の愛人をやったことがあって：すごいお金持ちの人だった：不動産やってビル幾つも持つてるみたい。僕もそこで働いてたんだけど：その人は僕みたいに身体は女で心は男みたいな子が好きみたいで、僕を希少種、あ、レア物ね？として扱ってくれたんだけど：でもまあ屈折して「お前は完全体だから！」って褒めることもあれば「中途半端なやつだ！」って罵ることもあって：そういう時は殴ったり蹴ったりした：あ、でもね、小心者なのか、ほとんど自分では手出さしないで、自分で自分を殴って言うの：

快人、ペットボトルの水を飲もうとするが、手が震えてうまく飲めない。

柳沢 「反省の時間」って言ってる、その人が「反省！」って言ったら自分で自分を殴ったり、刃物で刺したりしなきゃいけないの…

快人 なんてそんなこと…

柳沢 わかんない…ペットかなんかと同じように考えてたのかな…調教っていうのかな…それでこっちの耳(左)は一回鼓膜破っちゃった。だから、生傷が絶えなくて、仕事場では空手やってるって嘘ついてたけど…どう思われてたんだろ…？その人はフィリピン人のお母さんと日本人のお父さんのハーフで…子供の頃はすごくいいじめられてたんだって。その人をね…やっちゃった。

快人 …そっか。

柳沢 なんてね！さて、どこまでがホントでどこからがウソでしょうか？

快人 え？

柳沢 ヒント。

柳沢、膝を見せる。そこには十センチの赤い筋の傷がある。

それから、今度は手首の傷を見せる。そして、シャツをめくっていきこうとする。

快人 もういいよ！

柳沢 なんで？…中途半端だよ、これじゃ。

快人 もうこっちが…こっちの容器が、容量がいっぱいだから。

柳沢 ごめん。カミちやま、意外とヤワだね。

快人 ひどい話だよ。

柳沢 そうか…でもね、幸せだったんだよね、その時が一番…だって、僕のこと見ててくれたから。

快人 そんなの…違うでしょう。

柳沢 でも、そう思ってた…その時は。誰にもわからなくても、他の人から見たら何それ？ってことでも、その時、僕は幸せだった、と思う。

快人 本当に…殺したの？

柳沢 ううん。勝手に死んだ。心臓発作で。持病持ちで。でも、クスリ隠したのは僕。その頃、あの人は別のペットの調教に夢中だったから。

快人 …

柳沢 それで、金庫からお金もらって逃げちゃった。

快人 …

柳沢 ねえ、カミちやま、見てもいい？

快人 ダメ、それはダメ。

柳沢 お別れの挨拶。

快人 どこ行くの？

柳沢 さあね。どっか、隅っこ。また隅っここの町のそのまた隅の隅でひっそり暮らすつもり。

快人 そう。

柳沢 だから、ねえ、見てもいい？

快人 ダメだよ。僕は鳴瀬では誰にも見えてない。これはもう絶対なんだ。ルールを破った人はまだいない。

柳沢 最後だから。

快人 ……わかった……いいよ。

柳沢、目をつぶりながら起き上がって、手を伸ばす。

柳沢 触ってもいい？

快人 いいよ。

柳沢、快人を触る。

柳沢 あー…

快人 ……

柳沢、ゆっくり目を開ける。

柳沢 ……ぼやけちゃう。

快人 そりや見ないようにしてきたんだから。僕に焦点を合わせないように。

柳沢 ……見えてきた。かわいいね。どう？気分は？

快人 ……なんか、熱い……見られるって熱いんだ。火がつきそう…

柳沢 ……ずっと、誰からも見られないで生きてきたんでしょう？さみしくないの？

快人 カミちゃまだから。僕は。そんなこと感じたことない。

柳沢 だって、ここにいるのに見てもらえないってのは、さみしいことじゃない？

快人

そんなことないよ。見てもらわなくなたって構わない。感じてもらえばいいんだ。同じだよ、鳴瀬で死んでいった人たちと。ヤマでも川でもたくさん人が死んだ。死んだ人たちもここにいないけど、ここにいます。それを忘れないように僕がいる。僕はカミちやまなんだよ。カミちやまは人じゃない。鳴瀬のカミちやま。鳴瀬の象徴で、過去で、未来なんだって。

柳沢

誰がそんなことを押しつけたの？

快人

知らないよ、そんなの。

柳沢

今は人に見えるよ。

快人

今だけね。

柳沢

ありがとう。

柳沢、快人にキスをする。

快人

(ムツとして) …

柳沢

どうした？

快人

…また、いっぱいになって…もう戻るよ、さあ、もうあつちを向いて。

柳沢

はい。

柳沢、快人から視線を外す。

柳沢

さようなら。

快人

さようなら。

二人、動かない。

柳沢 いる？

快人 …

柳沢 いないの？

快人 …

柳沢 今日はずっとここにいて。そこで見ててね。

快人 …

二人、動かない。

⑰ 囚われ

小野寺、目を覚ますと、そこは廃坑である。

手と足を縛られている。

水が滴る音がする。

千葉 おはよう。

小野寺 え？どこですか？ここは。

千葉 ヤマ。ちよっと入ったところ。

小野寺 何ですか？これ。

千葉 自分で来たって言ってたじゃない。

小野寺 いや、これ(手足の縄)は何ですか?って言ってるんですよ。

千葉 アクセサリーでしょう。

小野寺 ……

千葉 冗談よ、冗談。

小野寺、縄を外そうとする。

千葉 無理、無理。

小野寺 ……外してもらっていいですか?

千葉 そういうわけには行かないよ。

小野寺 外して下さい。

千葉 あるんだねえ、こういうことって。

小野寺 おかしいでしょう!

千葉 怖いなあ。覚えてないの?昨日のこと。

小野寺 え?

千葉 あんまりあんたが暴れるからさ、仕方なくこうさせてもらってるんだよ。耕助さん、怪我させて。僕もほら、ここ(左の頬が腫れている)。

小野寺 え?僕がですか?

千葉 他に誰がいんのよ。こう掴みかかって。

小野寺 すみませんでした…もう大丈夫ですから。外して下さい。

千葉 信じたいけどね。でもねえ…

小野寺 裕貴くんは？どうになりました？

千葉 …まだ…どうにも。

小野寺 あ…昨日のことは本当にすみませんでした。でも、探しにはいかせて下さい。

千葉 もう関わらないほうがいいと思うよ。

小野寺 …

千葉 これ以上関わっても面倒くさいだけだよ。もうここも出入り禁止になっちゃったわけでしょう？

小野寺 納得いきません。

千葉 だから、そうやって無理言って昨日もここにきてさ、

小野寺 そうなんですか？

千葉 そうだよ。覚えてないの？まだ探してないからって入って行って、もう気が済んだろう？って言ったら、暴れだして。もう手がつけらんなかったぞ。だから、もうしょうがねえって。

小野寺 調査は続けます。今は無理でも。

千葉 言ったらろう？生活してるんだよ、ここで俺たちは。新しい奴が押しかけてきて、ああでもないこうでもないやってメチャクチャに荒らしてくるのは目に見えてるわけ。

小野寺 前は賛成してくれたじゃないですか。

千葉 暴力振るうやつには賛成できないね。

小野寺 それは本当に申し訳ないです。でも、それで閉じてしまったら、未来はないですよ。

千葉 閉じて何が悪い。この地区全体で死に支度を始めてるんだって。ちよつと浮かれてたよ、俺たちも。

小野寺 若い人たちはそう思っていないかもしれない。

千葉 若い人たちねえ。出ていこうとしてるだろう？真希ちゃんなんて。

小野寺 だけじゃなくて。

水野、耕助、登場。

小野寺 あ！大丈夫ですか？

水野 ……

小野寺 (耕助を睨む)

耕助 何？その目は。

小野寺 とつとと外してくださいよ、これ。

耕助 噛みつかないならね。

小野寺 (水野に) 大丈夫ですか？本当に。

水野 ……すみません。巻き込んでしまつて。

小野寺 裕貴くんは？

水野 大丈夫。見つかりました。

小野寺 え？

水野 帰ってきたんです。

小野寺 え？え？どっからですか？

水野 向こうから。向こうの方から。

小野寺 え？どういうことですか？

水野 いいの。そういうことなの。

小野寺 その…事情を話していただければ。

耕助 ない。

小野寺 え？

耕助 話すことはないよ。

耕助 水野さんに言ってるんです。

水野 …あの、もう大丈夫です。

小野寺 え？

水野 もう解決したんで。ご心配おかけしました。

小野寺 そんな！

水野 ありがとうございます。

小野寺 いやいや！

耕助 本人が言ってるんだから。

小野寺 ちよつと！納得できませんよ、そんなの。

耕助 (千葉に手招きして) 千葉ちゃん、ちよつと。

千葉 あいよ。

小野寺 どこ行くんですか？

千葉 ちよつと頭冷やしてなさいよ。

耕助 メシもトイレも、その袋の中に色々入ってるから。使って。

小野寺 なんですか？一体！全然わかんない！

耕助、水野、千葉、去る。

代わりに、義彦が入ってくる。

小野寺 あ。

義彦 どうも。

小野寺 どうもじゃないですよ。

義彦 そりゃそうか。

小野寺 何してるんですか？

義彦 見張り。

小野寺 …

義彦 やりたくないよ、僕だってこんなこと。

小野寺 やめましようよ。

義彦 あなたが落ち着いてくれればね。

小野寺 落ち着いてますよ。

義彦 …僕はね、あなたのこと嫌いじゃない。むしろ、好きなんだよね。

小野寺 だったら、ねえ？

義彦 年も近いし。

小野寺 はい。

義彦 気が合うっていうか。

小野寺 わかります。

義彦 だから、残念。

小野寺 何がですか？

義彦 もっと見ててくれると思った、僕らを。鳴瀬っていう土地を。深いところまでね。

小野寺 どういうことですか？

義彦 俺たちはすごく不自由なんだよね。縛られてる。でもそれは悪いことばかりでもない。いいとも言えない。ただ、そういうことなんだって思ってる。

小野寺 ちよつとよくわかりません。

義彦 あなたは何も知らない。これまで知ったことはね、この鳴瀬の一部分でしかないってこと。大きな輪っかの一部でしかないわけ。いい？だから、水野さんの子供は：帰ってくるの、ここに。みんなの子供として。その子は「カミチャマ」になるんだよ。

小野寺 カミチャマ？

義彦 そう。カミチャマ。一度さらわれて帰ってきた子供。つまり、戸籍がなくなってる。その子がいつでも鳴瀬を見守ってくれることになるんだよ。人間であって、人間でない。だから、誰からも見えない。

小野寺 …何を言ってるんですか？

義彦 そういうことになってるの。俺の子供の頃からずっとそうだから。

小野寺 え？じゃあ、裕貴くんがいなくなったのは、ウソだったんですか？

義彦 ウソじゃないよ。少なくとも水野さんにとっては。本気で焦ったと思うよ？

小野寺 他の人たちも知ってたんですか？

義彦 知らないよ。それじゃ意味がないから。うちら三人しか知らない。

小野寺 とんでもないことしてますよ。

義彦 そうかねえ。

小野寺 何でそんな子が必要なんですか？

義彦 何でって言われてもねえ。

小野寺 人権侵害でしょう。

義彦 そうなの？

小野寺 そうですよ。

義彦 そうかもしれないけど、それが普通だからなあ…ここはもうまともに草も生えないし、猫一匹住めないって、本当にもうどうにもならない土地って言われてたからさ、誰も近づいてこないわけよ。荒地よ、荒地。そんな時に鳴瀬を支えてくれたのがカミちやまなんだってこと。生き神様だよ。

小野寺 真希さんとか、知ってるんですか？

義彦 カミちやま？知ってるよ。子供の頃から、絶対に見ちゃいけないって教えることになってるよ。そうすると、本当に見えなくなるんだよ。わかるかなあ。じきにあなただってそうなる。

小野寺 …

義彦 カミちやまは一人ぼっちだ。そのカミちやまを皆で守る。助ける。心の支えにする。俺たちはそうやって耐えてきた。

小野寺 ちょっと待って下さい。ダンナさんは知ってるんですか？裕美さんの。

義彦 …

小野寺 知らないんですか？

義彦 ダンナは関係ない。

小野寺 え？どういうことですか？

義彦 言ってただろう？秀ちゃんが。ダンナの子じゃないって。裕貴は俺たちの子だ。その…俺か耕助さんか拓司さんの子だ。

小野寺 …それは…ちよつと…僕の理解を越えてる…

義彦

俺よりちよつと上の世代は子供を作らないできた。何か：もうわかるよな。遺伝する。感染するって言われてたからだよ。俺は反発して、よそで子供を作った。真希だよ。でも、それでも鳴瀬出身だって言うと、顔色変える奴もいてさ。耕助さんとこの百合子さんは養子だ。ずっとここに住んでたから。あと、拓司さんは夫婦でここに来たんだけど、奥さんはやつぱりこの土地のものは食べなかつた。それでそのうち出てった。それ以来音信不通だよ。ここはさ、呪われた土地とか言われてさ。ホラーかよっていう。でも、そんななかで、鳴瀬のもんは、鳴瀬の血は絶やしたくなかつたから、自分たちのカミちやまを作る方法を考えたんだよ。

小野寺

子供を何だと思ってるんですか？

義彦

皆かわいい、子供は。カミちやまは中でも一番かわいい。でも誰のものでもない。

小野寺

狂ってますよ。

義彦

そうかねえ。俺から見たら外の奴らのほうがよっぽど狂ってるよ。その狂った世界で生きづらくなった奴らがここにやってくる。

小野寺

ちよつと待って下さい。え？これまでのカミちやまっていうのもいたんですか？

義彦

ああ、スズさんとこにいるよ。

小野寺

え？もしかして、あの…

義彦

会ったことある？

小野寺

あります。ていうか、何で、みんな気づかないふりしてるんですか？

義彦

え、そう？ふりっていうか、そういうもんだからね。

小野寺

おかしいでしょう。

義彦

だから、それが普通だから。少し寝なよ。疲れたでしょう？

小野寺 …僕、全部バラしますよ？

義彦 …やめようよ、そういうの。

小野寺 だって、犯罪じゃないですか？こんなの。

義彦 軽々しく言うんじゃないよ。

小野寺 え？

義彦 法律じゃどうにもならない事態が起きて、法律じゃ守れない土地があつて、死んでいくことを期待されている人たちがいて、その中でどうやって、何を支えに行きっていくか。そこで出した答えがカミちやまだ。犯罪かどうかなんて線引きされてもこっちはなんにも怖くない。

小野寺 だって、子供は、裕貴くんとは、関係ないじゃないですか。

義彦 関係なくない！特別だ。特別な存在だよ。子供は。鳴瀬から一番遠い存在だ。それを皆で慎重に優しく育てようってことだ。

小野寺 いや、そうじゃなくて、裕貴くんが望むかどうか。

義彦 そういうわかったようなものさしはここでは通じねえ！何十年だぞ！何十年も、責任持って、カミちやまの成長を見守っていくんだぞ。こっちも中途半端な気持ちじゃできねえ。それでもやろうって言ってんだよ。そうすること、その間ずっと俺たちはカミちやまに見守られてる。カミちやまと共にある。鳴瀬は見捨てられた土地だ。でも、俺たちはカミちやまによって、生まれ変わった。

小野寺 どうせ第二陣、三陣とやってきますから。調査団が。そうしたら残念ながら全てが陽の目に晒されます。

義彦 その前に君が危ないよ。わかってる？ここがどこだか。廃坑なんて外からは何も見えない。聞こえない。

小野寺 …いや、僕ならまだ鳴瀬を擁護することも…

義彦
いいかい？鳴瀬には鳴瀬のやり方があって、それを外れたらもう鳴瀬じゃないんだよ。外のルールは関係ない。鳴瀬に従うだけだ。

小野寺
：

義彦
：わかってるよね？あなたももうこれで鳴瀬の一員ってことだからね。ゆっくり考えて。期待してるよ…消すね、ここ。おやすみ。

暗くなる。

水が滴る音が際立つ。

⑱解放

昼。道。解放された小野寺、流木を縄でくくりつけられている。

その姿でまぶしい中を歩いて行く。

千葉、畑仕事をしている。

義彦、家でくつろいでいる。

啓子、洗濯などの家事をしている。

志乃、家庭菜園でタネを撒いている。

百合子、家の中からじっと小野寺を見ている。

スズ、水野の家で裕貴の面倒を見ている。

快人、スズの家で座ってペットボトルの水を飲んでいる。

水野、スーパーで働いている。

斉藤、その横で商品を並べている。

耕助、透、道を歩いている。

真希、原田、橋の上で話している。

真希 答えて何？

原田 え？…これ。

原田、婚姻届を出す。

原田 俺の方はもう書いてあるから。

真希 何これ？

原田 だから、答え。

真希 そういうことじゃないでしょう？

原田 なんで？俺もうチーフになったし。

真希 それも違う。

原田 あれ、また違った？

真希 私はあの時、言われたことが許せないって話じゃん。

原田 うん、それはわかってる、バツチリ…その上での答えだから。

真希 やっぱリオスのやることってよくわかんないなあ。

原田 オスって。

真希 ずっと会ってなくて、いきなり「答え」とか言われて、「はい、そうですね」ってなると思う？

原田 だって、会ってくれないし。

真希 そりゃそうでしょう。

原田 でしょう？

真希 でしょう？じゃなくて。そこを乗り越えて来なきゃどうにもならないじゃん。

原田 …て、ことは？

真希 保留だよ！保留！

原田 えー！

真希 えー！じゃないよ、本当に。

小野寺、歩いて行く。

皆、通りすぎる小野寺をちらと見るが、あまり気にしていない。

小野寺、水野の家にたどり着く。

小野寺 …ただいま。

スズ おかえり。

小野寺 …あれ？

スズ おかえり。フフ、面白い格好して。

小野寺 別にこれは…なんでここに？

スズ 今日から行ったり来たりだから。あんたは出てってもらおうよ。

小野寺 え？ちよつと。

スズ 柳沢の史江が鳴瀬から出てっつてな。

小野寺 え？そうなんですか？

スズ うん、ちよつどいいからあそこに住め。

小野寺 そんな勝手に！

スズ シーツ！…今寝たばかりなんだから（と裕貴が寝ている場所を指す）

小野寺 …とりあえず、寝ます。

スズ はやく出てっつてな。

小野寺 そんな…これからどうしたらいいかもわかんないのに。

スズ 簡単だろ？こう考えなっつて。あんたは異教徒だった。で、そこから改宗して「鳴瀬教」に入っつたっつてな。鳴瀬の民だよ。

小野寺 鳴瀬、鳴瀬っつて…

スズ あんた、ヤマが好きなんだっつて？

小野寺 …まあ、はい。

スズ こっちはあそこで掘っつてたからよ。上半身裸で。暑くてな。すぐに汗と泥で真っ黒になっつちまう。男も女もねえ…みんなただの仲間よ。その仲間が鉋毒でみんな死んでっつて、会社はすぐにトンズラして…耕助んこと、俺んことそ

れ以外はもうパラパラってぐらいしか残らなかった。残ったってよりも、どこにも行けねんだよ、鳴瀬出身ってことがわかると、途端に警戒してな。ここはウランも出たからよ。でも大したことねえんだ。だけど、外の奴らはそれを百倍にして話してんだ。…だから、もう一度やり直そうってことで、カミちやまが、みんなが家族になれる子供がいたらって事になってよ。

小野寺 スズさんが自分からですか？

スズ 違う、違う。おれの腹に子供がいたんだけど、誰の子かわかなくてよ。ちやうどいいってことになって。

小野寺 そこまでしますか？

スズ するんだよ。

小野寺 なんですですか？

スズ …俺は…俺の家族は隣の国から連れてこられた…それで日本人との息子連れて向こうに帰るわけにもいかねえ。家族はみんな帰ったけど、俺は残った。

小野寺 …

スズ そんな話はもういいや。これから新しい時代が始まるんだからよ。

小野寺 …

スズ あんたの研究もできるってことだよ。

小野寺 …研究ねえ…

スズ ミジンコみたいなのを顕微鏡で覗いたりすんのか？

小野寺 まあ、そうです…わかんないでしょうねえ。今自分が見ているものが、古細菌が…自分たちの元の姿なんだって思うとおかしくてねえ…(段々と独り言になっていく) そんなこと今まで誰も信じてなかったなんて

スズ、裕貴の世話に行き、去る。

小野寺 …古細菌っていう変なおじさんが親戚にいたってこと、しかも、そっちのほうに僕らにそっくりだなんて、じゃあ今まで何だったんだって…本当デタラメ。(スズがいなくなったことに気付いて) あれ？

スズの家。

快人、自分の顔をゆっくり触り、唇に指を当てる。

快人 …俺は誰だ？…

⑱家族

夜。立花家。

啓子、義彦、透、真希、テーブルを囲んで座っている。

透 何？

啓子 ごめんね。突然集まってもらって。せっかく久しぶりに皆が集まってるどころ、申し訳ないんだけど…

義彦 …どうした？

啓子 もう皆大人だし…

義彦 前置きはいいいから。

啓子 志乃さんから聞いたんだけど、カミちやまはあなたの子供だって本当？

透・真希 え？

義彦 志乃：

啓子 どうなの？

義彦 子供たちは関係ないだろう。

透 どうなの？

義彦 どうとも言えない。

啓子 言って。

義彦 そうかもしれないし、そうじゃないかもしれない。

啓子 それじゃわかんない。

義彦 協力はした。それだけだ。

啓子 耕助さんと千葉さんとあなたで、水野さんを襲ったんだよね。

義彦 襲ってはいない。合意の上だよ。

真希 何それ？

啓子 そんなの通じると思ってたの？

義彦 全部、カミちやまの、鳴瀬のためだ。

透 それはちよつと、まずいでしよう。

真希 初耳なんですけど。

義彦 言い訳するつもりはないよ。ただ、鳴瀬のためだ。

啓子 (頭を抱えるようにして) それはない、それはないよ。

義彦 鳴瀬には鳴瀬の…

啓子 鳴瀬のことなら水野さんや裕貴君が犠牲になっていいんだ。

義彦 犠牲じゃない。特権だよ。

啓子 なんか…なんだろう…ねえ、本気で言ってるの？

義彦 ああ。

啓子 これまではね、まだわかるよ…家族がうまくいくには、鳴瀬に馴染もうって…でも、これはちよつともう…無理。

透 ママ、うん、もういい。もういいよ。

真希 え？弟？私の？弟？

義彦 違う…カミちやまだよ。

真希 え？

義彦 カミちやまだ！

啓子 教えて？真希ちゃんのカミちやまになるはずだったの？

真希 え？

義彦 それはない。誰の子かわかってるなら、それはないよ。

啓子 私がもし誰の子かわからない子を産んだら？

義彦 鳴瀬の血が流れてるなら、あり得る。

啓子 だって、血にこだわらないんじゃないの？だからウチは、

義彦 鳴瀬は別だ。鳴瀬に罪をなすりつけた奴らにいつか復讐するためにも絶対に血は絶やせない。

真希 そのために家族を、誰かを犠牲にするの？

義彦 逆だよ。家族が、誰かが外の奴らにバカにされないためにもだ。誇りに思っただけで欲しいからだよ。鳴瀬の火を絶やさな
いようにして、その周りには、あらゆる場所で虐げられた者たちが暖を取るように集まればいいんだよ。

啓子 …もういいや。

透 ママ？大丈夫？

啓子 …大丈夫。ごめんね…（義彦に）次は私の番だから。

義彦 …

透 うん。もういいよ。離婚してさ、それで、

啓子 離婚はしない。

透 え？だって、

啓子 しない、離婚は。そんなねえ、私たちが、真希ちゃんと透と一緒に過ごしてきた時間をそんな簡単に終わらせないか
ら。

透 どういうこと？

啓子 透、よく聞いて。あんたは鳴瀬を出なさい。ここにいたらダメ。

透 やだよ。

啓子 ママをやめるから。このうちにいるのはもうママじゃない。

透 え？ママ！

啓子 「ママ」はいない！…そういうことだから、真希さんもなるべく早いうちに荷物まとめてね。

真希 …

義彦 お前、

啓子 「お前」もやめて。もう「妻」でいる気もないから。

義彦 ちよつと落ち着こう。

啓子 落ち着いてる…志乃さんに誘われててね、私も「ご奉仕活動」参加しますから。

義彦 え？

啓子 私が次のカミちやまを産むから。

透 ママ！

啓子 ママはいない。突然、何の前触れもなく、人はいなくなるんだから。

透 いるじゃん、そこに。

啓子 いるのにいないってのは、鳴瀬でも「普通」でしょう？

義彦 無茶だよ、それは。

啓子 ううん、楽しい。これまで感じたことないくらい。

義彦 そんなわけないだろう。

啓子 そんなわけあるよ。だって、これまではただ、毎日御飯作って、あなたの顔色伺って、家族のルールに従って、誰にも迷惑かけないように生きてきて、その結果どう？びっくりするくらい誰から見向きもされない。どうせ鳴瀬の外に出たっておんなじ。だったらここで好き勝手させてもらいたい。

透 ママにはオイラがいるでしょう？

啓子 ごめんね。もう「ママ」でいるのも耐えられないんだよ。

透 そんないきなり！だって、オイラの計画ではママと住む庭付きの家を建てて、他にもたくさん、

啓子 透！もう魔法は解かれたの。もう「ママ」はいない。

透 ……どうしよう。

啓子 徐々にでいいから受け入れて。「ママ」の「ママ」じゃない部分を。

透 ……

啓子 ということで、今日はありがとう。話したいこと話せた気がする。おやすみなさい。

義彦 ちょっと待て。

義彦、啓子の腕をつかもうとして、啓子にはじかれる。

啓子 あ、それと、今後一切私には指一本触れないで。

啓子、去る。残された三人、放心している。

⑩カミちやまの母

夕方。道。

快人、登場。

快人、歩いて行く。

柳沢の家。

小野寺、登場。

柳沢の家に引越したらしく、そこで荷物をほどこいている。

まだ足には、流木がつながれている。

家を出て、歩き出し、スーパーに向かう。

スーパー帰りの志乃、百合子、登場。

快人とすれ違う。

志乃 あら？こんにちは。

百合子 こんにちは。

志乃 あ、こんばんはか。

快人 (身体をこわばらせて) …

快人、二人の間を駆け抜けて、去る。

しばらくして、小野寺、志乃と百合子とすれ違う。

志乃 あ…

小野寺 …あ…

志乃　ねえ、謝らないんですか？…お父さん、ここ（頬）、腫れ上がって食べられないんだけど。

小野寺　…本当に申し訳ありませんでした。

小野寺、慌てて通り過ぎようとする。

志乃　役割つてものがあんのよ、みんな。鳴瀬には。それわかないでどうすんの？

小野寺　…

志乃　とんがってどうすんの？この子だってそうよ。

百合子　おかあさん！

志乃　この子だって、いつか自分がね、カミちやまを生むかもしれないんだっていう覚悟はできてるんだから。

百合子　あの！

小野寺　…

百合子　今、新作を作ってますから。

小野寺　…

志乃　行こう！

百合子、志乃、去る。

小野寺、歩いてスーパーに着く。

水野　あ…

小野寺　あ…大体終わりました、引越し。

水野
…

小野寺
…お世話になりました。

齊藤、登場。

齊藤
あ、どうも。

小野寺
…

齊藤、商品を並べていく。

齊藤
いいつすね、それ。犬の散歩みたいで。

水野
ヒデちゃん。

齊藤
でも暴力はまずいつすよ、人のこと言えないつすけど。

小野寺
…

齊藤
でもね、まあ、よかったですよ。何にもなかったってことですよ、よく考えれば。

小野寺
…

齊藤
いつもと変わらないですよ、ここは。

小野寺
…

水野、小野寺に近づいてくる。

水野
頑張って下さい。

小野寺
え？

水野 試されてるんですよ、今。

斉藤 うん、そういうこと。

水野 最近、皆ちよつと変だったから。これでやつと元に戻るんですよ。

小野寺 ……それでいいんですか？

水野 それでいいんです。

斉藤 水に流しましょうよ、色々。鳴瀬の川に流しちゃつてよ。ね？

水野 カミちやまは見てますから。

小野寺 ……

志乃、登場。

斉藤 志乃さん。

志乃 そうそう。これ渡しておこうと思って。

志乃、小野寺にスタンプカードのようなものを渡す。

小野寺 え？

志乃 (カードを見ながら) ここが空いてる日。ここが月のアレだから…

小野寺 なんですか？これ。

志乃 だから、ほら、「ご奉仕」カード。これ見ればいつ身体が空いてるかわかるから。作つてよ、小野寺さんも。

小野寺 ……

志乃 啓子さんもね、始めたから。裕美ちゃんもね？そろそろ復帰しようかって。

水野 はい。

志乃 ヒデちゃんもそれ楽しみにしてて。

斉藤 いやいや！僕はもう呼ばればどこにでも、はい。

志乃 ウソ！

斉藤 ウソです、はい！

志乃 はい、いいこ、いいこ。そう、やっぱり変化も大事だから。もっともつつながろう鳴瀬ってスローガンをね：

小野寺、カードを破いて踏みつける。

志乃、小野寺を平手打ちする。

小野寺 こんなのおかしいでしょう！

志乃 あんたさあ、そんなに自分が正しいんだ？そんなに信じてんの？エリートで、常識があつて、良心があつて、理想があつて。

小野寺 いや、僕はただ、

志乃 犬に食わせる！そんなもんは。こっちはね、もっと深いとこでつながってんだよ。さらしなさいよ、もっと。上辺だけやっていけると思ってるんじゃないよ！

小野寺 そんなことはないですよ。

志乃 誰かを慰めてやったかよ。

小野寺 え？

志乃 もっと足使って、行ったり来たりしなさい。野菜だけ交換してるわけじゃないんだよ、こっちは。

小野寺 ……すいませんでした。これから……気をつけます。

志乃 それできないんだったら、あんた一生そのまま（流木をつけたまま）だよ。

小野寺 ……やります。だから外して下さい。

志乃 口だけで言われてもね。

小野寺 今日、お邪魔してもいいですか？

志乃 そんなの聞いてくるバカじゃないよ。

小野寺 あ、はい。

水野 それと、

小野寺 はい。

水野 カミちやまを信じる。それだけ。

斉藤 びつくりするから。段々ね、カミちやまの色が消えて、形が消えて、薄ぼんやりとして、ちゃんと見えなくなるから。

小野寺 ……

斉藤 うん。で、なんか買いに来たの？

小野寺、去る。

斉藤 ありがとうございます。

②自己紹介

夜。集会所。

百合子、真希以外の現在の鳴瀬の住民がいる。

片隅のベビーカーには、裕貴Ⅱカミちやまが寝ている。

セレモニー的な音楽が流れている。

義彦が立っている。

志乃、小野寺に手を振ったりしている。

小野寺、少し反応する。

志乃、笑う。

義彦

(紙を見ながら) えー、呉快人くんは今までカミちやまとしてみんなのことを見守り、そして、みんなは彼を心の支えにして生活してきました。そして、このたび、新しいカミちやまの誕生により、その任務を終え、ここに人として、第二の生を歩み始めます。そんな快人くんを拍手でお迎え下さい。

皆、拍手する。

快人、登場。

耕助、快人に近づいて快人の肩をたたき、横に立つ。

快人

か、快人、呉快人といいます…よ、よろしくおねがいします。しゅ、しゅ、趣味はさ、散歩です…

耕助

快人くんね、君はこれからどうしたい？

快人 んー…わかりません。

耕助 ぜひウチで働いてよ。木を切ったりする仕事を頼みたいんだよ。

快人 そ、それは、あの…ちよつと、む、無理ですね。

耕助 なんで、なんで。手取り足取り教えるからさ。ここにいる透くんもやってたことだから。

快人 ちよ、ちよつといいですか？

耕助 何？

快人 あの…み、見ないで下さい。

耕助 え？

快人 見ないで下さい。

耕助 どういうこと？

快人 な、慣れてないから。

耕助 見るよ。だって、そこにいるんだから。慣れてかないと、それは。

快人 見るな！

快人、耕助を押す。

耕助、よろける。

志乃 お父さん！ちよつと！何してんの？あんだ。

快人 見るなよ！

快人、志乃も押す。

志乃
キヤー！

千葉
快人くん、ちよつと！落ち着こう。

千葉、快人の腕をつかむ。

快人、その手を振りほどき、なおも暴れようとする。

義彦
おいおい！どうした？

斉藤
危ない、危ない！

斉藤、押さえつけようとする。

快人、なおも暴れる。

スズ
快人！快人！怖くないから。どうしたの？

その音で、部屋の隅のベビーカーにいる裕貴が泣き出す。

スズは裕貴の世話をしたいが、快人が心配で動けない。

耕助
ちよつと興奮しちゃったんだよ。な？

快人
見るなって！だから！

快人、走り去る。

スズ
快人！

スズ、快人を追いかける。

裕貴は泣きやまない。

耕助 裕美ちゃん！頼むよ。カミちやま。

皆、カミちやまを気にしないように気にしている。

小野寺、突然、カミちやまに近づき、ベビーカーごと、連れ去る。

水野 何すんの！ちよつと！

水野、追いかけようとして、一旦止まる。

水野 ねえ！ねえ！カミちやまが！カミちやまが連れ去られた。

水野、外に出ていく。

他の者も続いて外に出ていく。

小野寺、ベビーカーを押しながら疾走する。

途中、転びそうになったりしながらも、走る。

しかし、斉藤、耕助、義彦、千葉、水野が追い詰めていく。

小野寺、千葉の家の中に隠れる。

追っ手は迫る。

安藤家の裏からクマが現れる。

その姿は暗闇に紛れてよく見えない。

義彦 おい！クマだ！クマが出たぞ！

千葉 どこに？

義彦 耕助さんとその裏だ！

耕助 逃げろ！とにかく逃げろ。ゆっくり！速く！

斉藤、耕助、義彦、千葉、水野、志乃、啓子、透、クマから逃げるように散らばって家に入る。

クマ、のそのそと千葉の家まで来る。

中を物色するようにしている。

小野寺、息を殺す。

クマ、突然、窓を叩く。

百合子 小野寺さん！

小野寺 え！

百合子 小野寺さん！私！

百合子、クマの頭を取って、顔を見せる。

小野寺 え？

百合子 びっくりした？これ、作ってた新作。

小野寺 え？待って、待って、待って！

百合子 すごい！びっくりしてる。

小野寺 だって、そうでしょう。

百合子 今日、お披露目しようと思つてて。びっくりした？

小野寺 うん、びっくりした！

百合子 うん。もう汗びっしり！え？何してるんですか？

小野寺 何って…

百合子 (カミちやまに気付いて) え？カミちやま？

小野寺 ああ、うん。

百合子 え？何で？

小野寺 いや、ちよつと…え？まだ見えるの？

百合子 ううん。時々、見えそうになるけど。

小野寺 あの、ちよつと今、カミちやま、いや、裕貴くんを連れていくところで。

百合子 え？

小野寺 もうついていけないんで。こんなデタラメには。

百合子 デタラメ？

小野寺 そうですよ、(カミちやまを見せようとして) ほら！

百合子 (顔を覆って目を塞ぎ) やめて！

小野寺 見ましようよ。普通の赤ちゃんですよ、裕貴くんは。現実は！

百合子 そうかもしれないけど、でも、そうじゃない現実だつてあると思う！

小野寺 …(行こうとして)そこ、どいてもらえますか？

百合子 イヤです。

小野寺 どいて下さい。

百合子 イヤ！

鳴瀬の住民たち、再び集結して、小野寺にじわじわと近寄ってくる。

小野寺 もう時間ないんで！お願いします！

百合子、クマの頭をかぶる。

百合子 (クマの鳴き声で) ガー！ (大声で) 私は…小野寺さん、あなたを食べたい！爪で引っ搔いて！肉を裂いて！血をすすって！骨を噛み砕いて！あなたを食べてしまいたい！

小野寺 …え？…それは…

百合子 …どうぞ行って下さい。その代わりに、あなたの服を何かもらえますか？そうすれば鳴瀬の人たちはクマにやられたと思っ、油断するかもしれません。

小野寺、上着を脱いで百合子に渡す。

百合子 はやく！

小野寺 ありがとう。

小野寺、ベビーカーを走らせて去る。

百合子、小野寺の上着をギョツとする。

百合子、また、鳴瀬を徘徊し始める。

② バトン

夜。山の上。

舗装された道路の近く。

小野寺、息が切れて登場。

走るようにして、真希、原田、登場。

真希 わー！本当に来た。

原田 おー！

小野寺 あんなに走ったのに、よく寝てる。スピード狂なのかな？

真希 安心してたんですよ。

小野寺 本当にいいの？

真希 もちろん。

原田 はい。二人でちゃんと話したんで。

真希、原田、ベビーカーを押す態勢になる。

真希 どうだろう？

原田 何？

真希 ううん…

原田 行こう！凍えちゃうよ。赤ちゃん。

真希 うん。じゃあ、落ち着いたら連絡します。

原田 ありがとうございます！

小野寺 うん。

小野寺、ゆっくり戻ろうとする。

その時、銃声が聞こえる。

小野寺 え？（と下の方を見る）

鳴瀬でクマⅡ百合子が倒れている。

ゆっくりと、クマの周りに人が集まってくる。

快人、登場。自分で目を潰したのか、両目から血を流している。

快人、橋の上に立つ。

快人（震えながら）おーい！おーい！ここにいるぞ！見てくれ！僕はここだ！思う存分僕を見てくれ！

快人の後ろから、スズ、登場。

スズ 快人、お前、何やってんの？

快人 …あー、皆さん、天気予報をお知らせします！…明日はきつと雨だ！この風のおいからすると、きつとそうだ！明日はきつと雨ですよ！（その場に崩れ落ちる）

皆、クマの周りに立って、クマを見ている。

【おわり】